

小松市内遺跡発掘調査報告書 X

矢田借屋古墳群

鳥 遺 跡

吉竹 C 遺跡

2014.3

石川県小松市教育委員会

例 言

1. 本書は、石川県小松市において小松市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 試掘調査・発掘調査・出土品整理・報告書刊行は、文化庁補助金を受けて実施した。
3. 対象となった埋蔵文化財、並びに調査地・調査原因・調査面積・調査期間・調査担当者は次のとおりである。

【矢田借屋古墳群】(平成 22 年度)

[調査地] 石川県小松市月津町
[調査原因] 個人農地造成
[調査面積] 1,140m²
[発掘調査] 2010. 4.26 ~ 2010. 8. 4
[調査担当] 宮田 明

【島遺跡】(平成 23 年度)

[調査地] 石川県小松市島町
[調査原因] 個人住宅建設
[試掘調査] 2005.11.22
[試掘担当] 岩本信一
[調査面積] 310m²
[調査期間] 2011. 9. 1 ~ 2011.10. 8
[調査担当] 宮田 明

【吉竹 C 遺跡】(平成 23 年度)

[調査地] 石川県小松市吉竹町
[調査原因] 工場建設
[試掘調査] 2011. 7.28
[試掘担当] 岩本信一
[調査面積] 617m²
[調査期間] 2011.10. 3 ~ 2011.11. 2
[調査担当] 宮田 明

4. 発掘調査は、臨時作業員を雇用して実施した。
5. 出土品整理並びに実測・製図は、臨時作業員を雇用して、平成 25 年度に実施した。
6. 遺構の実測及び写真撮影は、各発掘調査担当者が行い、遺物の写真撮影は、各執筆担当者が行った。
7. 本書の執筆は各担当者を目次に付記し、編集は宮田が担当した。
8. 発掘調査に係る遺物・図面・写真等の資料は、すべて小松市教育委員会で一括保管している。

凡 例

1. 本書に示す座標は平面直角座標 VII 系、高度は標高(T.P.)で表示し、世界測地系(測地成果 2000)に準拠している。
2. 本書に示す方位は、特に断りがない限り、座標北である。
3. 本書に示す土色は、マンセル表色系に準拠している。
4. 本文中で「飛鳥時代」は古代の範疇で扱っているが、報告書抄録では、時代名称は原則として『石川県道跡地図』の区分に準拠し、「古墳時代」としている。
5. 土器の実測図で正中線上に表示したマークは、▼が反転復元、▽が反転復元と調整の描画を示す。
6. 本文中の用語及び年代比定等は次の編年に準拠した。出典は各章末に挙げ、ここでは略記とする。
田嶋 (1988) 古代編年軸の設定、北陸古代土器研究
田辺 (1981) 須恵器大成
西 (1986) 土器様式の成立とその背景
望月 (2008) 南加賀地域の平安後期土器群に関する編年的考察

目 次

I 位置と環境	1
II 矢田借屋古墳群発掘調査	13
III 島遺跡発掘調査	39
IV 吉竹 C 遺跡発掘調査	45

写真図版 1 ~ 6

報告書抄録

第Ⅰ章 位置と環境

第1節 地理的環境

(1) 市勢と沿革

小松市は石川県南部に位置し、東西約20km、南北約30kmに跨る市域は面積371.13km²を測る。南は大日山(1368m)で福井県勝山市と境し、ここより約5km北に位置する鈴ヶ岳(1174m)を水源とする梯川流域を包括した市域をなしている。市域の大半は山岳地であり、約11万人を数える人口の大部分は北西部の狭長な平野部に集中している。近世城下町として成立し、商業都市として発展した小松町を核として近隣7町村を合併して昭和15年市制施行、その後2次にわたる編入合併を経て現在に至っている。

(2) 加賀三湖と月津台地

小松市の山岳地(加越山地)は新第三紀火碎流堆植物よりなるが、この外縁を縁取るように、第四紀高位段丘がなだらかな丘陵を形成している。ここより北にせり出すのが月津台地で、標高は、高所で約20m程度あるが、平均的には5~10m程度で、なだらかな起伏の連続した中位段丘である。大きな開析谷で区切って、北を御幸野台地、南を矢田野台地と呼ぶこともある。かつて、周囲は浜堤列で海と隔てられた潟湖が囲み、泥質の湿地や湿田が広がっていたが、現在は今江潟の全城、柴山潟の約3分の2が干拓され、湿田や湿地も月津台地の採取土で埋め立てて乾田化されている。

梯川は、大杉谷を北流し、郷谷川・津上川等を合わせて国府台地をえぐりながら西に向を変え、八丁川・前川等を合わせて、安宅で浜堤を突き破って日本海に注ぐ。図2は明治時代の河道と水域を合成したものだが、幕末の頃までは、細かく複雑に蛇行していた。

(3) 梯川と梯川デルタ

梯川は掃流力が弱く、自然堤防の発達が悪い平坦な沖積平野を形成した。河道が南に折れる地点が小松城跡で、小松町は埋没したもっとも内陸側の浜堤列上に立地している。梯川デルタはこれより下流には形成されず、河道は手取川デルタとの境界に当たる最も低い位置にある。複雑に蛇行する河道はしばしば氾濫したため、明治維新直後から河道の直線化工事が繰り返さ



図1 小松市の位置



図2 小松市の地形

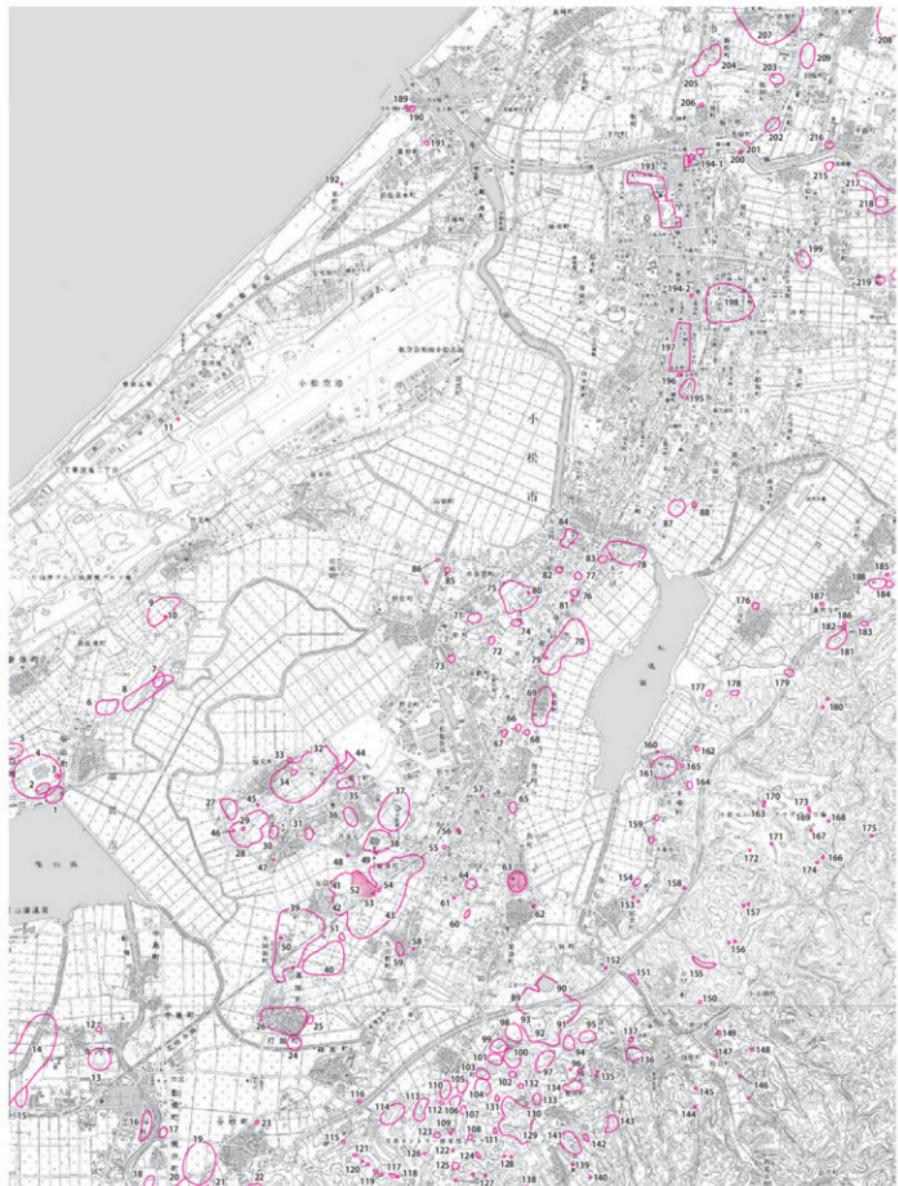


図3 遺跡分布図



れてきた。明治 44 年～大正 12 年に石田橋～安宅間の開削工事により、現在の河道になり、河川改修は現在も続いている。

本報告で言う梯川デルタとは、事实上、梯川と今江潟・木場潟を結んだ領域を指している。図 2 に表示はないが、この領域には明治 20 年頃までは扇形に小河道群が残っており、灌漑に利用されていた。この中央を貫流していた猫橋川が本流とされ、これら小河道群は、デルタを形成した梯川旧河道群と見なされる。傾斜の少ない平坦な地形はしばしば湛水被害を引き起こし、明治 32 年の耕地整理法以降、用水確保と湛水防除の必要から用排水路の整備が繰り返し行われた。

第 2 節 歴史的環境

(1) 旧石器～縄文時代の遺跡

発見例自体は決して少なくないが、小松市内では資料が乏しい。能美丘陵界隈で言えば、河田山遺跡（276）や八里向山 A～F 遺跡（300～305）など、散発的に遺物や遺構が確認された例はあるが、集落遺跡としての確認例は断片的である。能美市能美丘陵東遺跡群では、宮竹庄が屋敷 A～D 遺跡や宮竹うっしょやま A・B 遺跡（いずれも図郭外）など、縄文時代中期を中心に豊富な資料を得るに至っている。遺跡のほぼ全域を調査したこの両者は非常に好対称をなしている。

一方、月津台地では、念仏林遺跡（37）が集落遺跡としては代表的な調査例と言えるだろう。近現代の開発も含め、多くが後世の破壊を受けて潰滅的な状態の中で、集落像の一実例を提供している。能美丘陵でも月津台地でも、縄文時代の集落遺跡の多くは短期間に営まれた小集落で、南加賀では能美丘陵が分布的中心をなすと見なされる。

(2) 弥生時代の遺跡

八日市地方遺跡（198）が大規模な環濠集落として特筆され、中期はここだけに収斂する趨勢であり、後期頃から古墳時代前期にかけて梯川周辺に広い範囲に集落が点在する景観となる。代表的なところでは、高堂遺跡（図郭外）、大長野 A 遺跡（210）、漆町遺跡（220）、荒木田遺跡（245）のように、広大な領域の複合遺跡で法仏期頃以降の遺物が出土していて、月影期頃にかけては、河田山遺跡（276）や八里向山 A 遺跡（300）で高地性集落が確認されている。ただ注意が必要なのは、広大な領域の複合遺跡というのは、現集落からはずれた範囲であることが前提であり、範囲の狭小な遺跡は、現集落と重複して確認できないことが多い。

(3) 古 墳

能美地域の首長墓の系譜とされる末寺山 5・6 号墳、秋常山 1 号墳、和田山 5 号墳（いずれも図郭外）を擁する能美古墳群が手取川河道域と目される領域の南に接して築造される。造墓は弥生時代末に始まり、古墳時代を通じて造墓が継続する、能美地域の中核的古墳群と評価されている。

能美丘陵界隈では、中期後半以降、河田山古墳群（277）や下開発茶臼山古墳群（図郭外）など、中小規模の円墳・方墳が尾根筋に密集して混在ないしいずれかのみの構成で築造される群集墳が各所に分布する。また、平野部では、千代オオキダ遺跡（226）で、削平された方墳からなる前期段階の古墳群が発見され、新たな知見を得るに至っている。

月津台地では、小規模な後期古墳が疎らに分布する趨勢で「三湖台古墳群」と総称され、古墳群としては江沼地域に属する。造墓が始まる早い段階では白のほぞ古墳（44）や御幸塚古墳（82）などの中規模の前方後円墳が見られるが、主体は小規模な円墳で、埴輪を作う。矢田借屋古墳群（52）のような密集する造墓のあり方は、三湖台古墳群では今のところ特異な事例といえるだろう。

埋葬施設は、木棺直葬から後期前半に木芯粘土室、さらに後半に切石積横穴式石室が採用される。

(4) 古墳時代～古代・中世の遺跡

集落遺跡の趨勢で言えば、6世紀以降8世紀にかけては集落の再編期に当たり、相対的に資料が稀薄になる傾向があり、7世紀頃を前後して廃絶する集落と出現する集落がある。

7世紀代の月津台地では、額見町遺跡(32)の発掘調査以降、矢田野遺跡(43)、薬師遺跡(70)でL字形カマドを設えた堅穴建物跡の発見が相次ぎ、渡来系移民の動静が、木場潟を挟む対岸の江沼丘陵を占地する古代製鉄遺跡群の趨勢との相関性において注目される。

梯川デルタ地域に目を転じると、8世紀、在郷の財氏関連遺跡とされる佐々木遺跡(231)が異彩を放つほかは、概ね盛期が9世紀後半～10世紀前半になる傾向が知られている。墨書き土器をはじめとして、施釉陶器や風字硯など、上級に格付けされる遺物が出土するものの、大型建物や倉庫群といった目立つ遺構の発見例に恵まれず、集落遺跡の評価を難しくしている。

寺院跡として、図3には中宮八院(319、322、331、338、347、348、349、352)を表示しているが、現状は伝承地の域を出ない。発掘調査された寺院跡として、浄水寺跡(243)、八里向山B遺跡(301)、里川E遺跡(314)が、いずれも加賀立国以後、中宮八院以前に成立した山林寺院に位置づけられ、浄水寺のほかは短期間で廃絶している。また、目下調査中の松谷寺跡(349)では、8世紀前半に遡る古代山林寺院跡が確認され、「松谷庵寺」として名称上の区別を明確にして取り扱うこととなった。なお、同調査で「松谷寺」は確認に至っていない。

製陶遺跡群について、6世紀前半には二ツ梨東山古窯跡(105)で須恵器生産を開始し、二ツ梨豆岡向山古窯跡群(100)、二ツ梨殿様池古窯跡群(101)で埴輪を焼成した窯も確認されており、江沼地域の古墳出土埴輪の供給地と考えられている。以後、10世紀中頃まで操業が続く南加賀古窯跡群が江沼丘陵を占地する。一方の能美丘陵では、7世紀前半に八里向山J遺跡(地蔵谷古窯跡:309)で須恵器生産を開始し、同後半には湯屋古窯跡群(図郭外)に操業の拠点を移動する。8世紀前半には和気古窯跡群(図郭外)へさらに移動し、9世紀前半まで窯を移動しながら操業が続き、疎らな窯跡群を残した。これら能美市和気地区の窯跡群は、能美古窯跡群の南群として括られ、窯1基あたりの出土量が多い特徴が知られている。南加賀古窯跡群との比較では、操業の盛衰が補完的な傾向が指摘される一方で、技術的にも供給的にも両者の異質性も指摘されている。

これら製陶遺跡群とほぼ重複して、製鉄遺跡群も分布する。遺跡の性質上、時代不詳の遺跡は多いが、今までに知られる最古の例として、蓮代寺ガッショウタン遺跡(183)で製鉄に伴うと見られる製炭窯が7世紀後半～末ないし8世紀初頭に比定されている。

律令期～中世には、各所で莊園が開発されるが、発掘調査でこれに関連する成果として、徳久・荒屋遺跡、下開発遺跡(いずれも図郭外)が律令期に成立した東大寺領幡生莊に比定されている。また、白江梯川遺跡(218)、漆町遺跡(220)は中世に皇室領や京都妙法院領として経営された南白江莊に関連する遺跡とされ、前者は在地領主層の拠点となる領域と考えられている。白江堡跡(218)は『能美郡誌』によれば、従前の白江念佛寺塔遺跡(漆町遺跡:220)周辺が推定地の一つに上がっていたが、『石川県遺跡地図』に記載される内容と、従来プロットされていた旧白江墓地で埋蔵文化財が存在しなかった事實を勘案すれば、今までの情報に照らす限りは、ここに比定すべきだろう。

(5) 中世の城館・寺院・窯跡

中世城館跡や中世寺院跡は、文献や口碑によるところが大きく、その多くは一向一揆にまつわるものである。近代の耕地整理で破壊を受けた遺跡が多く、調査が入った事例は極めて乏しい。岩渕城跡(339)、岩倉城跡(345)、波佐谷城跡(354)など、縄張図が作成されている事例はあるが、いずれも、城郭としての構造が判然としない。

中世窯業について、古代の南加賀古窯跡群の分布域にはほぼ重複して、在地瓷器系窯、いわゆる「加賀窯」が分布する。常滑窯の技術に基づく窯で、壺を中心とした日用雑器類の生産が主力であったとされる。操業の期間が短く、12世紀末までには二ツ梨奥谷1号窯（108）で操業を開始し、湯上谷古窯跡群（143）で盛期を迎えるが、これを最後に14世紀代に一旦途絶え、西荒谷カマンダニ窯（岡郭外）で越前窯の技術移植により一時操業するが、現在までに流通は確認されておらず、程なく終焉したといわれている。

⑥ 近世～現代

1640（寛永17）年、藩主を退いた前田利常の小松城入城を契機として、城下町としての小松町が成立するが、関連するところで大川遺跡・東町遺跡（194）が埋蔵文化財包蔵地（近世の町屋跡）として周知化されている。大川遺跡では発掘調査も実施され、小松市でも近世城下町に考古学のメスが入りつつある。なお、前田利常の没後、亡骸は三宅野（現在の小松市河田町地内）で荼毘に付されたとされており、灰塚（264）が伝わっている。

近代窯業の関連で、南加賀では19世紀初めに加賀藩窯としての若杉窯（235）に始まるいわゆる再興九谷は、肥前系の染付・色絵の技術を移植して操業が軌道に乗り、若杉窯で技術を習得した陶工らによって、蓮代寺窯（186）、小野窯（263）などの民窯も操業を始めた。近代以降も民営の製陶業は引き継がれている。窯業という括りで言えば、再興九谷とほぼ時期を同じくして越前より技術移植して操業が始まる製瓦業も現代に引き継がれ、製品は「小松瓦」と呼ばれる。

さて、現集落の多くは近世以降に興った集落であり、地名も、郷名または荘園、中宮八院に所以を持つものなど見られるが、集落自体に直接の関係はなく、地名伝承にも不確かな部分が多い。史実で確かめられる伝承でも、例えば、一向一揆の古戦場伝承が古墳と結びついたり（土百古墳：81）、戦国末期の武将の墓と伝承される塚が古墳であったり（左門殿古墳：45）するなど、類似の事例はいくつか明らかになっている。加賀国府・国分寺や中宮八院などの文献史の分野で研究が進んでいる場合でも、伝承地が曖昧であったり複数あるなど、所在が確認できない現状を抱えている。

表1 遺跡地名表

No.	名 称	種 别	時 代	備 考
1	篠山本村跡1号	古墳	縄文	
2	篠山本村跡2号	その他の遺跡	中世	
3	篠山本村跡3号	遺跡地	不詳	
4	篠山本村跡4号	城跡跡	中世	
5	一分A遺跡	遺跡地	古墳～古代	
6	篠山古墳	古墳・集落跡	縄文	加賀市指定史跡
7	篠山本村跡5号	古墳	古代	
8	篠山本村跡6号（本塚地）	遺跡地	古生	篠山古墳跡A地内に所在する古墳
9	山口A遺跡	遺跡地	縄文	篠山古墳跡B地點に隣接する地点
10	山口B遺跡	遺跡地	不詳	
11	山口C遺跡	遺跡地	不詳	
12	今川遺跡	遺跡地	不詳	
13	新堀遺跡	遺跡地	古代（平安）	
14	新堀B遺跡	遺跡地	縄文	
15	新むづき城跡遺跡	遺跡地	古生～中世	
16	新堀C遺跡	聚落跡	中世（室町）	
17	坂井町生センター遺跡	遺跡地	古代	
18	坂井遺跡	遺跡地	古代	
19	分校A遺跡	遺跡地	古墳	
20	分校B遺跡	遺跡地	古代（平安）	
21	分校C1号古墳群	古墳	古墳	円墳2
22	分校C2号古墳群	古墳	古墳	前方後円墳3、円墳10、方墳6
23	分校C3号古墳	古墳	古墳	前方後円墳
24	行原A遺跡	遺跡地	縄文	
25	行原B遺跡	遺跡地	古生	
26	行原跡	城跡跡	中世（安土桃山）	
27	須切B西遺跡	遺跡地	古生～中世	
28	須切A遺跡	遺跡地	不詳	
29	須切B遺跡	遺跡地	縄文	
30	須切C型式古墳	その他の遺跡	古代（奈良）	

No.	名 称	種 别	時 代	備 考
30	川津オキ池跡	遺布地	古墳・中世	
31	川津人跡跡	遺布地	古代(奈良)	
32	船貝町遺跡	遺布地	縄文	
33	船貝町前人跡跡	遺布地	古墳・中世	船貝町遺跡の一部
34	船貝町前日遺跡	遺布地	縄文	船貝町遺跡の一部
35	市町遺跡	遺布地	縄文・平洋	
36	月津野遺跡	遺布地	縄文・古代	
37	笠佐町遺跡	集落跡	縄文	
38	笠佐町南遺跡	集落跡	弥生・古墳	
39	矢田山遺跡	集落跡	古代(奈良)	
40	万何理遺跡	遺布地	縄文	
41	矢田人跡跡	遺布地	縄文	
42	矢田山遺跡	遺布地	古墳	矢田山遺跡の一部
43	矢田山遺跡	集落跡	古墳・古代	
44	白の石古墳	古墳	古墳	前方後円墳
45	左門山古墳	古墳	古墳	円墳
46	新田山古墳	古墳	古墳	円墳、2段築成
47	阿留山古墳	古墳	古墳	円墳
48	笠佐山古墳	古墳	古墳	円墳
49	笠佐山古墳	古墳	古墳	円墳、切妻積石式石室、室形石棺
50	丸山遺跡	古墳	古墳	円墳、切妻積石式石室
51	鬼森原古墳	古墳	古墳	円墳、切妻積石式石室
52	美田山原古墳群	古墳	古墳	円墳 14、前方後円墳 3、不明 1、木軸土室
53	人の原古墳	古墳	古墳	古墳
54	美田山石造物	古墳	古墳	円墳 3、前方後円墳 1
55	美田山エジリ古墳	古墳	古墳	前方後円墳
56	美留山古墳	古墳	古墳	前方後円墳
57	羽津山の古墳	古墳	古墳	円墳、切妻積石式石室
58	中村山古墳	古墳	古墳	円墳、切妻積石式石室
59	矢田山神社前遺跡	遺布地	古代(平安)	
60	下蒙人塚 A 墓	初六墓	不詳	楕円 7 ~ 8
61	羽林塚	羽林塚	不詳	
62	下蒙人塚 C 墓	初六墓	不詳	楕円 6
63	島遺跡	集落跡	弥生～中世	
64	島 B 遺跡	遺布地	古代	
65	島 C 遺跡	遺布地	古墳	方墳?
66	弓津 A 遺跡	遺布地	縄文	
67	弓津 B 遺跡	遺布地	古墳	
68	弓津 C 遺跡	集落跡	古墳	
69	矢崎の下遺跡	集落跡	古墳・中世	
70	葉部遺跡	集落跡	古墳・古代	
71	ホカノヤマ A 遺跡	遺布地	古代(奈良)	
72	ホカノヤマ B 遺跡	遺布地	古墳	
73	ホカノヤマ C 遺跡	遺布地	古墳	
74	今山(ノ)山遺跡	遺布地	弥生	
75	鶴山遺跡	集落跡	古墳	
76	千百瀬跡	遺布地	縄文	
77	今江五丁目遺跡	集落跡	縄文・古墳	
78	古御山丘塚	丘塚	縄文	
79	矢崎の古墳	古墳	古墳	
80	鶴山山遺跡	古墳	古墳	
81	千石山遺跡	古墳	古墳	
82	御山遺跡	古墳	古墳	前方後円墳、小石の御宝穴跡
83	千石山 B 墓	初六墓	不詳	楕円 7
84	御山古墳跡	城郭跡	中世	土手上古塁の一部
85	弓石跡	土石遺跡	中世末	倒壊
86	弓石古墳	土石遺跡	近世初期	鷹瓦塗
87	大崩遺跡	遺布地	古代	
88	浅川山古墳場	その他の墓	中世末	船形定光跡
89	林別山遺跡	丘陵跡	不詳	
90	林遺跡(林タカケヤ古跡跡群)	生産遺跡	古墳	近世初期 3、雨加賀古跡跡北群
	林遺跡(林タカケヤ古跡跡群)	生産遺跡	古墳	近世初期 2、中世期 1、雨加賀古跡跡北群
	林遺跡(林タカケヤ古跡跡群)	生産遺跡	古代	剣持山 2、剣持山 4、剣持山 5、跡空山 2
	川津 5~12 号道路	生産遺跡	古代(平安)	近世初期 2、雨加賀古跡跡北群
	川津 5~12 号道路	生産遺跡	古代(平安)	剣持山 4、剣持山 3
91	戸津シングワツ型道路	生産遺跡	古代(平安)	近世初期 36、(云湯兼業), 1、跡空山 19, 製鉄山 2, 加賀業 1, 雨加賀古跡跡北群
92	戸津古跡跡	生産遺跡	古代(中世(鎌倉))	近世初期 2, 製鉄山 1, 雨加賀古跡跡北群
93	戸津 5~12 号古跡跡	生産遺跡	古墳	近世初期 2, 製鉄山 1, 雨加賀古跡跡北群
94	戸津 5~12 号跡	生産遺跡	古代(平安)	製鉄山
95	戸津 5~12 号跡	生産遺跡	不詳	製鉄山 1, 製鉄山 1
96	戸津 5~12 号跡	生産遺跡	古代(平安)	近世初期 1, 製鉄山 1, 雨加賀古跡跡北群
97	戸津アヤマ古跡跡	生産遺跡	不詳	製鉄山
98	戸津オキニ遺跡	生産遺跡	古代(奈良)	近世初期 2, 製鉄山 1, 雨加賀古跡跡北群
99	ツツ堅一古跡跡群	生産遺跡	古代	近世初期 12, 十輪院山 28, 製鉄山 1, 製鉄山 2, 雨加賀古跡跡北群
100	ツツ堅一古跡跡群	生産遺跡	古墳・古代	近世初期 4
101	ツツ堅一古跡跡群	生産遺跡	古墳・古代	近世初期 12, 13, 14, 繩引山 2, 云霧山 2, 雨加賀古跡跡北群
102	ツツ堅一古跡跡群	生産遺跡	古墳・古代(平安)	近世初期 12, 13, 14, 繩引山 2, 云霧山 2, 雨加賀古跡跡北群
103	ツツ堅一古跡跡群	生産遺跡	古墳	十輪院山 2, 云霧山 2, 雨加賀古跡跡北群
104	ツツ堅一古跡跡群	生産遺跡	古墳	近世初期 2, 云霧山 2, 雨加賀古跡跡北群
105	ツツ堅一古跡跡群	生産遺跡	古墳	近世初期 5, 云霧山 2, 雨加賀古跡跡北群
106	ツツ堅一古跡跡群	生産遺跡	古代(奈良)	近世初期 1, 製鉄山 1, 製鉄山 1, 雨加賀古跡跡北群
107	ツツ堅一古跡跡群	生産遺跡	古代(奈良)	近世初期 1, 製鉄山 1, 雨加賀古跡跡北群

No	名 称	種 别	時 代	考
108	ツ形舟身・2列脚	生產鐵	古代(平安)	奈良朝後半、北側第1・南側第2・南加賀古洞跡工部
109	ツ形舟身・1・2列脚	生產鐵	不詳	製鉄2
110	ツ形舟身・3列脚	生產鐵	古代	奈良朝後半(6世紀後半)、南加賀古洞跡工部
111	ツ形セガラ六角脚	生產鐵	不詳	奈良朝後半、南加賀古洞跡工部
112	美田町古谷山3列脚	生產鐵	古代(奈良)	奈良朝後半、南加賀古洞跡工部
113	美田町古谷山3列脚	生產鐵	古代(奈良)・中世(鎌倉)	奈良朝後半、加賀第2・製鉄3・南加賀古洞跡工部
114	越前川口ガサナ古洞跡	生產鐵	古代(奈良)・中世(鎌倉)	奈良朝後半、南加賀古洞跡工部
115	越前川口橋	鐵布地	中世	
116	越前川口道跡	鐵布地	中世	
117	小天王谷1~2号跡跡	生產鐵	中世(鎌倉)	加賀第2
118	小天王谷1号跡跡(天王山1号製鉄跡)	生產鐵	不詳	製鉄炉
119	小天王谷2~3号跡跡	生產鐵	不詳	製鉄2
120	大久保谷1~2号跡跡	生產鐵	不詳	製鉄2
121	大久保谷古洞跡	生產鐵	不詳	
122	黒谷1号跡	生產鐵	中世(鎌倉)	加賀第2
123	美田町カタマダニ製鉄跡	生產鐵	不詳	製鉄3
124	美田町1~2号橋穴	鐵六轍	不詳	
125	黒谷1~5号橋穴	鐵六轍	不詳	
126	黒谷6号橋穴	鐵六轍	不詳	
127	黒谷6号橋跡	生產鐵	不詳	製鉄炉3
128	「東洋3号」セガラ製鉄跡	生產鐵	不詳	製鉄炉3
129	「東洋4号」セガラ製鉄跡	生產鐵	古代(平安)	奈良朝後半、製鉄2・南加賀古洞跡工部
130	「東洋5号」セガラ製鉄跡	生產鐵	古代(平安)	奈良朝後半~5、製鉄2・南加賀古洞跡工部
131	「東洋6号」セガラ・ヤマ・古洞跡	生產鐵	古代(奈良)	奈良朝後半、南加賀古洞跡工部
132	「東洋7号」古洞跡	生產鐵	古代(奈良)	奈良朝後半、南加賀古洞跡工部
133	「東洋8号」古洞跡	生產鐵	古代(奈良)・中世(鎌倉)	奈良朝後半、加賀第1・製鉄炉1・南加賀古洞跡工部
134	「東洋9号」セガラ・古洞跡	生產鐵	中世(鎌倉)	加賀第4・製鉄炉1
135	河津1~2号製鉄跡	生產鐵	不詳	製鉄炉2
136	河津1号遺跡	封土堆	中世(鎌倉)	
137	河津2号時跡・古洞跡	鐵布地	古墳~中世	
138	「西原1号」古洞跡	生產鐵	不詳	製鉄炉1
139	西原2号古洞跡	生產鐵	古代(平安)	奈良朝後半・製鉄炉1・南加賀古洞跡工部
140	西原3号古洞跡	生產鐵	不詳	製鉄炉1
141	「西原4号」カツラ・清藤	生產鐵	古代(平安)~中世	奈良朝後半~5、製鉄炉2・清藤、南加賀古洞跡工部
142	「西原5号」タニ古洞跡	生產鐵	中世(鎌倉)	加賀第2
143	「西原6号」古洞跡	生產鐵	中世(鎌倉)	加賀第1・製鉄炉2
144	西原6号セガラ・古洞跡	生產鐵	不詳	製鉄
145	西原6号セガラ・ナクシ製鉄跡	生產鐵	不詳	製鉄2
146	現1号古洞跡	生產鐵	不詳	製鉄2
147	現10号遺跡	遺迹	中世(鎌倉)	現10号古洞跡
148	山田山1号製鉄跡	生產鐵	不詳	製鉄炉2
149	月1津社製鉄跡	生產鐵	不詳	製鉄
150	月1丁ソンドウ製鉄跡	生產鐵	不詳	製鉄
151	月1丁遺跡	鐵布地	不詳	
152	林八幡神社跡	經界	中世(鎌倉)	
153	津波根大トコ・ジビ跡	鐵六轍	中世(鎌倉)	地下式古6、2基調査
154	大谷1号塚	圓坟	圓文	
155	小山田ゴザリ2号跡	鐵布地	不詳	新平野古墳
156	小山田丸子1・2号古洞跡	生產鐵	不詳	製鉄炉2
157	小山田オカラタニ2号古洞跡	生產鐵	不詳	製鉄炉2
158	津波根ハナミタマ2号古洞跡	生產鐵	不詳	津波根1・製鉄調査
159	木場1号遺跡	古墳	古墳	甲府4
160	木場2号遺跡	古墳	古墳	地元で相田城跡とされる
161	木場3号遺跡	鐵頭跡	不詳	
162	木場4号遺跡	鐵頭跡	不詳	
163	木場5号遺跡	鐵頭跡	不詳	
164	木場6号遺跡(木場遺跡II項目)	生產鐵	古代(奈良)	製鉄炉1・製鉄爐2
165	木場7号遺跡	鐵布地	古代(平安)	不詳
166	木場8号遺跡	鐵布地	古代(奈良)	製鉄爐3・新平野古墳
167	木場遺跡B項目(6号古洞跡)	生產鐵	古代(奈良)	製鉄炉2・製鉄爐3
168	木場遺跡B項目(6号古洞跡)	生產鐵	古代(奈良)	製鉄爐3
169	木場遺跡C項目(3号古洞跡)	生產鐵	不詳	加高
170	木場遺跡D項目(4号古洞跡)	生產鐵	不詳	加高
171	木場遺跡E項目(5号古洞跡)	生產鐵	不詳	加高
172	木場遺跡F項目(6号古洞跡)	生產鐵	不詳	製鉄
173	木場遺跡G項目(7号古洞跡)	鐵六轍	不詳	現D1
174	大山遺跡	鐵布地	不詳	新平野古墳
175	長谷山遺跡尾の山遺跡	鐵布地	不詳	新平野古墳
176	行瀬跡	鐵布地	圓文	
177	谷1号遺跡	鐵布地	弥生~古墳	
178	谷1号古洞跡	不詳	不詳	遺丘又は塚
179	谷1号古洞跡	集頭跡	古代~中世	
180	谷1号古洞跡	生產鐵	不詳	製鉄炉1・新平野古墳
181	通行1号頃跡	鐵頭跡	不詳	小畠郷・鶴舎
182	通行2号頃跡	生產鐵	中世(鎌倉)	製鉄炉1・製鉄爐1
183	通行2号セガラ・ヤマ・古洞跡	生產鐵	古墳	製鉄爐3・新平野古墳
184	通行4号遺跡	鐵布地	不詳	新平野古墳
185	通行1号遺跡	生產鐵	近世	製鉄
186	通行2号遺跡	生產鐵	近世末	西九条「通行寺」
187	通行2号古洞跡	生產鐵	近世初期	機械
188	通行1号頃跡	石井跡	中世	近氏氏庭寺「通行寺」記定地
189	安宅1号頃跡	その他の遺跡	不詳	新平野古墳
190	安宅1号古洞跡	鐵布地	不詳	新平野古墳
191	安宅1号古洞跡	その他の遺跡	不詳	新平野古墳
192	安宅1号古洞跡	石井跡	不詳	新平野古墳
193	安宅1号頃跡	鐵頭跡	近世	新平野古墳
194.1	大川遺跡	利尻跡	近世	近世小堀城下町・新平野古墳

No	名 称	種 别	時 代	備 考
194-2	東町遺跡	集落跡	近世	近世小石城下町・東町の津守跡
195	平町遺跡	生産遺跡	中世（室町）	廻山
196	名太郎日向内遺跡	居住地	中世（室町）	廻山内本郷
197	木舟跡跡	城跡跡		木舟丘が本郷山の一部
198	八日山地方遺跡	居住地	縄文～中世	近傍集落
199	上小川遺跡	居住地	古代（平安）	
200	福山中筋遺跡	居住地	居住	福山に分離された八日町内廻地
201	福山中筋B遺跡	居住地	居住	福山に分離された石川町内廻地
202	島田A遺跡	居住地	古墳	
203	島田B遺跡	居住地	古墳	
204	御前遺跡	城跡跡	中世（室町）	
205	西御遺跡	居住地	弥生～古代	一宮一宿・板川新七郎垂露御前跡・承跡
206	尾道跡	居住地	弥生～古代	
207	毛駒遺跡	居住地	縄文～弥生・中世	
208	長田遺跡	居住地	古墳～古墳	
209	長田山遺跡	居住地	古墳～古墳	
210	大丘町A遺跡	居住地	古墳	
211	大丘町B遺跡	居住地	古墳	
212	多良田山遺跡	居住地	古代（平安）	
213	子代アリバ付跡	居住地	古墳	子代一中世
214	牛船ウツク遺跡	居住地	縄文～中世	
215	平山城跡遺跡	居住地	古墳	福山に分離された大日町内廻地
216	平山城跡B遺跡	居住地	古墳	福山に分離された石川町内廻地
217	白川橋遺跡	居住地	中世	
218	白川鬼跡	城跡跡	中世（室町）	
219	GII遺跡	居住地	古墳～中世	白川新町盛岡御前跡の東
220	漆町遺跡	居住地	弥生～中世	漆町遺跡の一部
221	一針遺跡	居住地	縄文	
222	一針山遺跡	居住地	弥生～古墳	
223	一針山遺跡	居住地	弥生～古墳	
224	定地跡跡	社寺跡	中世（室町）	
225	子代・足美遺跡	居住地	古墳～中世	
226	子代オキダ遺跡	居住地	縄文～弥生	
227	子代一野町跡	居住地	古墳	方道6
228	子代本山遺跡	城跡跡	中世（室町）	
229	子代木本遺跡	居住地	古墳	
230	頸地遺跡	居住地	縄文	
231	佐々木山遺跡	居住地	古墳	財氏城跡（余目）
232	佐々木ノマウラ遺跡	居住地	弥生～中世	
233	佐々木アサハラ遺跡	居住地	弥生～中世	
234	石川遺跡	居住地	古代	
235	石川遺跡	生産遺跡	近世末	西興九谷（石川底）・遅近式登案
236	吉竹遺跡	居住地	弥生～中世	
237	吉竹山遺跡（吉竹遺跡19番区）	居住地	古墳	利根川の海跡
238	吉竹一遺跡	集落跡		
239	木村山遺跡	居住地	縄文	
240	木村山A遺跡	居住地	古墳	方道8
241	木村山B遺跡	居住地	古墳	
242	栗谷山遺跡	生産遺跡	古墳	栗谷山古墳
243	淨水寺跡	社寺跡	古代～中世	創建は弘法天皇・因幡寺跡(山寺寺院跡)の一部
244	八幡遺跡	居住地	弥生～古墳・古氏（金武）・中世（麻食）	
	その他の墓		古代（平安）	土山墓
	八幡山遺跡	古墳	古墳	円鏡8、木芯粘土室
	八幡山河原跡	生産跡	近世末	西興九谷「八幡山河原」・八幡山古跡を削平して築いた通同式河原
245	栗木山遺跡	居住地	古墳～中世	
246	射南山河原	居住地	縄文～中世	
247	大谷山遺跡	居住地	弥生	
248	射南山遺跡	居住地	弥生～中世	
249	龜山山跡	生産遺跡	古墳	6作
250	射南中世聚落	その他の墓	中世（室町）	栗石墓9
251	射南山寺	社寺跡	古氏（平安）	大和寺跡・承跡
252	西芳今之遺跡	社寺跡	古代（平安）	西芳寺跡・承跡
253	古村のまち遺跡	居住地	弥生～古墳	
254	古村遺跡	居住地	古代（平安）	
255	古村アンドン遺跡	居住地	古氏（平安）	
256	十九里の中世聚落	社寺跡	古氏（平安）	知国郡分寺聚落跡
257	十九里の中世聚落	その他の墓	中世（室町）	
258	古村町	不詳	不詳	
259	古村アマ遺跡	居住地	古代（平安）～中世	
260	西野山遺跡	居住地	縄文	
261	小野スル野跡	居住地	古代（平安）	加茂町の確定地の一箇
262	小野スル木遺跡	居住地	古代（平安）	加茂町の確定地の一箇
263	小野野跡	生産跡	近世末	西興九谷「小野野」
264	御田山遺跡公園跡	その他の墓	近世末	御田山古跡が御園に付された地名される
265	御田山の山跡	その他の墓	近世末	古跡の古跡供養と御田方法を記したむじ・小松山御定跡
266	御田山セケノ遺跡	居住地	不詳	

No	名 称	種 别	時 代	備 考
267	須田上サンタニ遺跡	遺布地	不詳	
268	須田上ラムナニ遺跡	遺布地	古代・中世	
269	須田上ルルカニ遺跡	遺布地	古墳	
270	芦谷ラクダガ遺跡	遺布地	縄文・中世（奈良）	
271	須田山跡跡	遺布地	古代	
272	須田塚	古墳	不詳	
273	須田山古墳跡	古墳	古墳	円墳 9、木柏古墳、木立古墳
274	須田山古墳	古墳	古墳	円墳 12、方墳 4
275	蘇井佐古墳	古墳	古墳	円墳
276	河田山遺跡	遺布地	羽石原～縄文	
	集落跡	弥生		高地性集落、河田山 10～12 号墳が重複
	その他の墓	古墳（奈良）		大安寺、河田山 1 号墳の内側に所在
277	河田山古墳群	古墳	古墳	
	河田山古墳	古墳	古墳	前方後円墳 2、前方後円墳 2、円墳 22、方墳 34、平野 1、木柏古墳、木立古墳、羽石原六古墳
278	河田山 1 号墳跡	生産遺跡	古代（奈良）	前方後円墳 2、後方後円墳 2、円墳 22、方墳 34、平野 1、木柏古墳、木立古墳、羽石原六古墳
279	河田山 5 号墳跡	生産遺跡	不詳	後方後円墳 2、河田山 54 号墳の内側に所在
280	河田山 6 号墳	遺布地	縄文・古代（奈良）	前方後円墳、須美古墳跡曲群 八里・河田山支群、河田山 6 号墳の北側斜面に所在
281	下八幡原山遺跡	遺布地	不詳	
282	下八幡原山遺跡	遺布地	不詳	地下式 6、楕円 1、不規 1、3 地点で計 8 墓
283	下八幡原山遺跡	祭祀場	中世（奈良）	楕円 11 墓
284	下八幡原山遺跡	その他の墓	中世（奈良）	
285	下八幡原山遺跡	遺布地	縄文・古代（奈良）	
286	下八幡原山遺跡	遺布地	古墳	
287	下八幡原山遺跡	祭祀場	古墳	
288	下八幡原山遺跡	祭祀場	古墳	
289	下八幡原山遺跡	祭祀場	古墳	
290	下八幡原山 2 号墳跡	生産遺跡	古代（奈良）	前方後円墳、須美古墳跡曲群 八里・河田山支群
291	下八幡原山 2 号墳跡	生産遺跡	不詳	地下式 2 地点、須美古墳跡曲群 八里・河田山支群
292	河田山遺跡	遺布地	縄文・中世	
293	下山田町遺跡	遺布地	不詳	
294	佐野 1 号墳	遺布地	弥生	
295	佐野 2 号墳	遺布地	古墳	
296	佐野 3 号墳	遺布地	古墳	
297	佐野 4 号墳	遺布地	古墳	
298	河田山下 1 号墳	遺布地	古墳	
299	河田山下 2 号墳	遺布地	古墳	
300	八里山山 A 遺跡	遺布地	縄文	
301	八里山山 B 遺跡	遺布地	集落跡	高地性集落
302	八里山山 C 遺跡	遺布地	羽石原～縄文	
303	八里山山 D 遺跡	遺布地	弥生	
304	八里山山 E 遺跡	遺布地	古墳	
305	八里山山 F 遺跡	遺布地	古墳	
306	八里山山 G 遺跡	遺布地	古墳	前方後円墳 1、木柏古墳
307	八里山山 H 遺跡	遺布地	その他の墓・礎石群	中世（奈良）
308	八里山山 I 遺跡	生産遺跡	古墳	前方後円墳、須美古墳跡曲群 八里・奈良主支群
309	八里山山 J 遺跡	生産遺跡	古墳	前方後円墳、須美古墳跡曲群 八里・奈良主支群
310	里田山遺跡	生産遺跡	不詳	割田遺跡 2、割田山山 20
311	里田山遺跡	生産遺跡	不詳	割田遺跡
312	里田山遺跡	生産遺跡	不詳	割田遺跡
313	里田山遺跡	遺布地	縄文	
314	里田山遺跡	社寺跡	古代（平安）	加賀國 8、因守山山 20 号墳山寺院跡の一つ
315	里田山遺跡	社寺跡	古代（平安）	加賀國 8、因守山山 20 号墳山寺院跡の一つ
316	里田山遺跡	遺布地	不詳	
317	道奈モリタケタキ A 遺跡	遺布地	古墳（平安）～中世	
318	道奈モリタケタキ B 遺跡	遺布地	古墳（平安）～中世	社寺（跡）又は城跡と承認
	立明の古墳跡	生産遺跡	古墳（平安）	前田遺跡（丘陵部）
319	立明の古墳	古墳	古墳	古代遺跡の可能性も
	立明の古墳	社寺跡	古墳（平安）	中世・高麗、被覆ある丸塗の一つ
320	道奈モリタケタキ	遺布地	縄文	
321	河の堀遺跡	その他の墓	（平安）	造量 4、3 月調査、2 号墳は築時代に削除に利用された？
322	道奈モリタケタキ	社寺跡	古代（平安）	中世・高麗、被覆ある丸塗の一つ
323	安庭 2 号墳	社寺跡	中世（奈良）	～約一耕・宇田発掘の古墳跡とも
324	鶴岡 1 号墳	城跡跡	不詳	～約一耕・宇田発掘の古墳跡とも
325	鶴岡 2 号墳	不詳	不詳	地下式古墳？
326	尼大久保古寺跡	社寺跡	古墳	
327	尼大久保 1 号古墳	古墳	古墳	
328	尼大久保 2 号古墳	古墳	古墳	
329	尼大久保 3 号古墳	古墳	古墳	
330	アツエタツヤマ古墳群	古墳	古墳	円墳 2、木立古墳
331	中南 1 号墳	集落跡	古墳	古墳（平安）
332	中南 2 号墳	古墳	古墳	中田八塚、地名伝承の中
333	中南 3 号墳	古墳	縄文	
	河内 1 号遺跡	遺布地	羽石原	

No	名 称	種 别	時 代	備 考
334	貴賀今守跡	その他の墓	中世	
335	赤城山古墳跡	古墳地	縄文	
336	朝の谷古墳跡	不詳	不詳	存在自体が不明、5基跡に記される
337	赤城古スギノキ古墳跡	前方後圓	不詳	縄六墓 地下式M.4
338	青柳古跡	古寺跡	古代(平安)	小松市歴史跡
339	羽須野跡	城跡跡	中世	
340	尼ヶ田跡	城跡跡	中世	
341	尼御山鬼附・尼御前里	その他の墓	古代(平安)	小松市歴史跡
342	吉ノ山跡	古墳地	縄文	
343	吉ノ山世観跡	その他の墓	中世	
344	下吉ノ山古墳	前方後圓	不詳	縄六墓 地下式M.3
345	羽曾跡	城跡跡	中世(室町)	
346	唯の木古跡	古墳地	縄文	
347	丘跡古跡	古寺跡	不詳	中晩六墓
348	瀬田古跡	古寺跡	古代(平安)	中晩六墓
349	板谷山寺跡	古寺跡	古代(奈良)	8世紀半ばに遡る古代山林寺跡
350	板谷寺跡	古寺跡	不詳	中晩六墓
351	江田跡(山神山古跡)	城跡跡	中世(室町)	一の城・平野尾山城伝承地
352	蓮花寺跡	古寺跡	不詳	中晩六墓
353	渡佐古跡	古墳地	中世(室町)	
354	渡佐古跡	古墳地	中世(室町)	二の城・宇津ノ内渡佐古跡伝承地
355	道佐山古跡(道佐古跡)	古寺跡	中世(室町)	
356	道佐山古跡	古墳地	不詳	縄六墓 地下式M.5
357	東山古跡	古墳地	縄文	
358	東山古跡	古墳地	縄文	
359	大竹山古跡	古寺跡	不詳	縄六墓 地下式M.3
360	高木・谷城古跡	古墳地	不詳	縄六墓 地下式M.1
361	弓山城跡	古墳地	不詳	縄六墓 地下式M.1
362	酒城跡(酒城)	城跡	中世(室町)	
363	酒山城跡	古墳地	不詳	縄六墓 地下式M.1
364	赤堀跡	古墳地	縄文	
365	今ノ堀跡	古墳地	縄文	ほかに3個跡の伝承あり
366	鶴子山城跡	城跡跡	不詳	
367	和気町古跡跡	生産跡	古代(平安)	十勝羽衣川、能美古跡跡南群・鷹山古跡群
368	和気町古跡(弓子古跡)	生産跡	古代(奈良～平安)	東野羽衣、能美古跡跡南群・鷹山古跡群
369	和気町古跡(弓子古跡)	生産跡	古代(平安)	東野羽衣、能美古跡跡南群
370	和気町古跡	生産跡	近世	
371	和気町A1A2古跡	古墳地	縄文	
372	和気町古跡跡	城跡跡	不詳	
373	和気町和弘古跡	生産跡	不詳	近野羽衣、能美古跡跡南群・鷹山古跡群
374	唐守城跡	城跡跡	中世	
375	唐守城跡(城六墓)	古墳地	不詳	
376	寺古山古跡	生産跡	不詳	近野羽衣、能美古跡跡南群
377	寺島御跡(古跡)	古墳	古墳	
378	鍋谷山古跡	古寺跡	不詳	
379	鍋谷山世観跡	その他の墓	中世	
380	鍋谷山古跡	古墳地	不詳	
381	鍋谷古跡	城跡跡	不詳	

参考文献

- イ 石川県教育委員会(1992) 石川県遺跡図録
- 石川県立埋蔵文化財センター(1986) 漆町遺跡I, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1988) 漆町遺跡II, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1988) 長町西部遺跡群I, 石川県能美市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1988) 白江梯川遺跡I, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1989) 漆町遺跡III, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1989) 漆町遺跡IV, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1989) 白江梯川遺跡II, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1989) 蓬代寺地区遺跡I, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1990) 小松市高堂遺跡
- 石川県立埋蔵文化財センター(1993) 能美丘陵東遺跡群I, 石川県能美市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1995) 石川県小松市荒木田遺跡
- 石川県立埋蔵文化財センター(1997) 能美丘陵東遺跡群II, 石川県能美市
- 石川県立埋蔵文化財センター(1998) 能美丘陵東遺跡群III, 石川県能美市
- (財)石川県埋蔵文化財センター(1999) 能美丘陵東遺跡群IV, 石川県能美市
- (財)石川県埋蔵文化財センター(1999) 能美丘陵東遺跡群V, 石川県能美市
- (財)石川県埋蔵文化財センター(1999) 長町上土徳山谷山西窓跡, 石川県能美市

- (財) 石川県埋蔵文化財センター (2002) 加賀市柴山貝塚・柴山出村遺跡
- (財) 石川県埋蔵文化財センター (2006) 小松市矢田野遺跡群
- (社) 石川県埋蔵文化財保存協会 (1993) 小松市林遺跡
- (社) 石川県埋蔵文化財保存協会 (1998) 石川県小松市八幡遺跡 I
- 石川考古学研究会 (1988) 石川県城館跡分布調査報告
- ウ 上野 與一 (1965) 考古篇, 小松市史 4. 風土・民俗篇, 小松市教育委員会, 石川県
- カ 輕海用文誌編纂委員会 (1996) 輕海用文誌, 小松東部土地改良区, p75-77. p201-221. 石川県
- コ 小松市教育委員会 (1988) 念仏遺跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (1990) 渕上谷古窯跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (1990) 二ツ梨東山古窯跡・矢田野向山古窯跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (1992) 矢田野エジリ古墳, 石川県
- 小松市教育委員会 (2000) 矢田借屋古墳群, 石川県
- 小松市教育委員会 (2003) 八日市地方遺跡 I, 石川県
- 小松市教育委員会 (2004) 佐々木遺跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (2004) 八里向山遺跡群, 石川県
- 小松市教育委員会 (2005) 小松市内遺跡発掘調査報告書 I. 二ツ梨豆岡向山窯跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (2006) 小松市内遺跡発掘調査報告書 II. 矢田借屋古墳群, 石川県
- 小松市教育委員会 (2006) 千代才オキダ遺跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (2006) 小野遺跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (2006) 額見町遺跡 I, 石川県
- 小松市教育委員会 (2007) 小松市内遺跡発掘調査報告書 III. 薬師遺跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (2007) 額見町遺跡 II, 石川県
- 小松市教育委員会 (2008) 額見町遺跡 III, 石川県
- 小松市教育委員会 (2009) 額見町遺跡 IV, 石川県
- 小松市教育委員会 (2010) 額見町遺跡 V, 石川県
- 小松市教育委員会 (2011) 小松市内遺跡発掘調査報告書 VII. 矢崎宮の下遺跡・薬師遺跡 V 次, 石川県
- 小松市史編纂委員会 (2001) 新修小松市史 3. 九谷焼と小松瓦, 小松市, 石川県
- 小松市史編纂委員会 (2002) 新修小松市史 4. 国府と荘園, 小松市, 石川県
- タ 辰口町教育委員会 (1982) 辰口町下開発茶臼山古墳群, 石川県能美市
- 辰口町教育委員会 (1985) 辰口町湯屋古窯跡, 石川県能美市
- 辰口町教育委員会 (2001) 辰口町湯屋古窯跡 III, 石川県能美市
- 辰口町教育委員会 (2004) 下開発茶臼山古墳群 II, 石川県能美市
- 辰口町教育委員会 (2005) 和氣後山谷窯跡群, 石川県能美市
- テ 寺井町教育委員会 (1997) 加賀能美古墳群, 石川県能美市
- ヘ 日置 謙 (1923) 石川県能美郡誌, 能美郡役所, p366-375. p642. p823. p1268-1269. p1342-1343., 石川県
- 日置 謙 (1925) 石川県江沼郡誌, 江沼郡役所, p679., 石川県
- ホ 北陸中世土器研究会 編 (1997) 中・近世の北陸, 桂書房, p193-208.

第Ⅲ章 矢田借屋古墳群発掘調査

第1節 調査の概要

(1) 既往の調査

矢田借屋古墳群の調査史は古く、昭和 25 年 8 月、石川考古学研究会幹事だった上野與一氏の指導の下で小松高校地歴クラブが実施した 2 号墳及び 4 号墳の調査が嚆矢となる（第 1 次調査）。所在地は当時「矢田町ム 11番地借屋」、「借屋塚」（日置 1925）と呼ばれていた 4 号墳を含め、周辺に 8 基の古墳が確認されており、調査の結果、当時近隣に所在する念仏林古墳の調査で発見されたばかりだった粘土室を主体部に有する古墳として注目された。その後、周辺の農道補修工事等によって破壊の危機に直面し、昭和 30 年に工事の影響で墳丘の一部が損壊していた 7 号墳が、昭和 36 年には 8 号墳が調査された（第 2・3 次調査）。この区域は、小松市教育委員会（以下、市教委）が平成 12 年度に宅地造成計画を原因として詳細分布調査を実施したが、1～8 号墳はこの時点で確認することはできず、これらとは別に 12 号墳と 15 号墳を確認した。なお、この時の造成計画は後に中止となった。

今調査に係る区域は月津町地内で「向借屋」と通称されていた。こちらは平成 10 年度に個人住宅建設の計画が持ち上がったときに市教委の試掘調査によって古墳の周溝を確認したことにより、緊急に発掘調査を実施（通算第 4 次調査とする）、9～12 号墳として報告した。

上述した平成 12 年度の詳細分布調査をはじめとして、当時鬱蒼とした山林の状態だった当該地周辺は開発計画が複数あった模様で、平成 13 年度にも 4 筆分について市教委が発掘調査を実施（通算第 5 次調査とする）、確認した古墳は都合 17 基となった。

当該地は最終的に県営ほ場整備事業の一環で造成され、（財）石川県埋蔵文化財センターが道路予定地について発掘調査を実施し（古墳群の調査としては通算第 6 次）、この際に 18 基目の古墳の周溝が確認された。

(2) 調査に至る経緯

通算第 7 次となる今調査地は、平成 10 年度の通算第 4 次調査によって一部調査された区域にあたり、県営ほ場整備では埋蔵文化財保存のために抜根整地できないまま事業完了した。この影響で耕作ができない農地となっていたため、地権者 4 名より発掘調査を依頼された。最初に相談を受けたのは平成 21 年の秋であったが、未調査区域の面積は 1,140m²に及ぶためすぐには対応できず、次年度、平成 22 年度の国庫補助事業で予算化して対応することとした。

文化財保護法および発掘調査に係る諸手続きは地権者 4 名と個別に進め、平成 22 年 4 月 7 日付でそれぞれ協定書を交換した。

(3) 調査の方法

調査区は、平成 10 年度調査を踏襲して「A 地区」「B 地区」とした。グリッドも同様に踏襲し、A 地区は平成 10 年度調査時の、B 地区は平成 13 年度調査時のものに基づいているが、原点は保存されていないため、図上の近似点（E-6）を現場で設定しているため、既往調査のグリッドとは必ずしも一致しない。グリッドは 5m 間隔である。

遺構の実測は、着手前に 4 級基準点を委託業務により設置し、これを与点として行った。今調査分については、グリッドは計算で得られた座標に基づいて図上にプロットしている。

平面図、ドットマップ及びセクションポイントは光波測距儀で得られた座標をすべて野帳に記録し、必要に応じて図化した。原図の縮尺は、平面図は 50 分の 1、断面図は 20 分の 1 である。

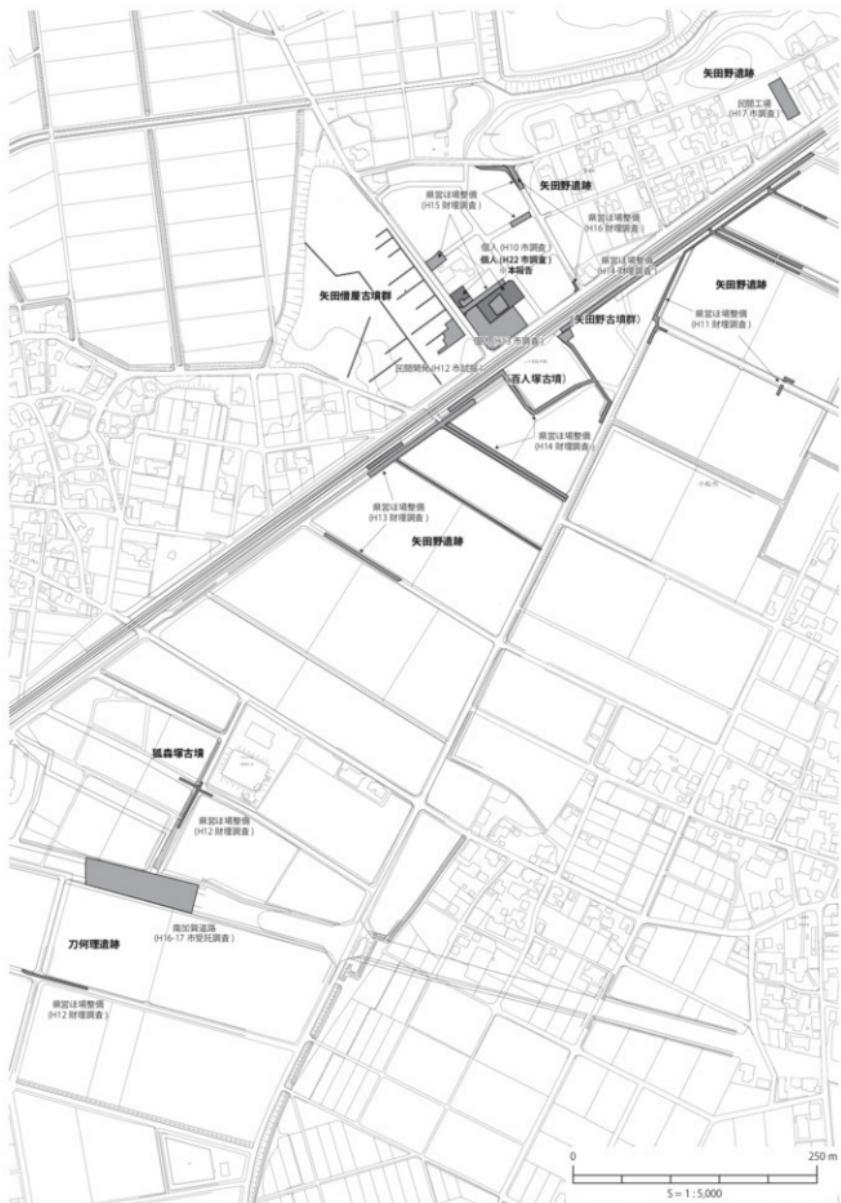


図4 矢田借屋古墳群 調査地の位置1



図5 矢田借屋古墳群 調査地の位置 2

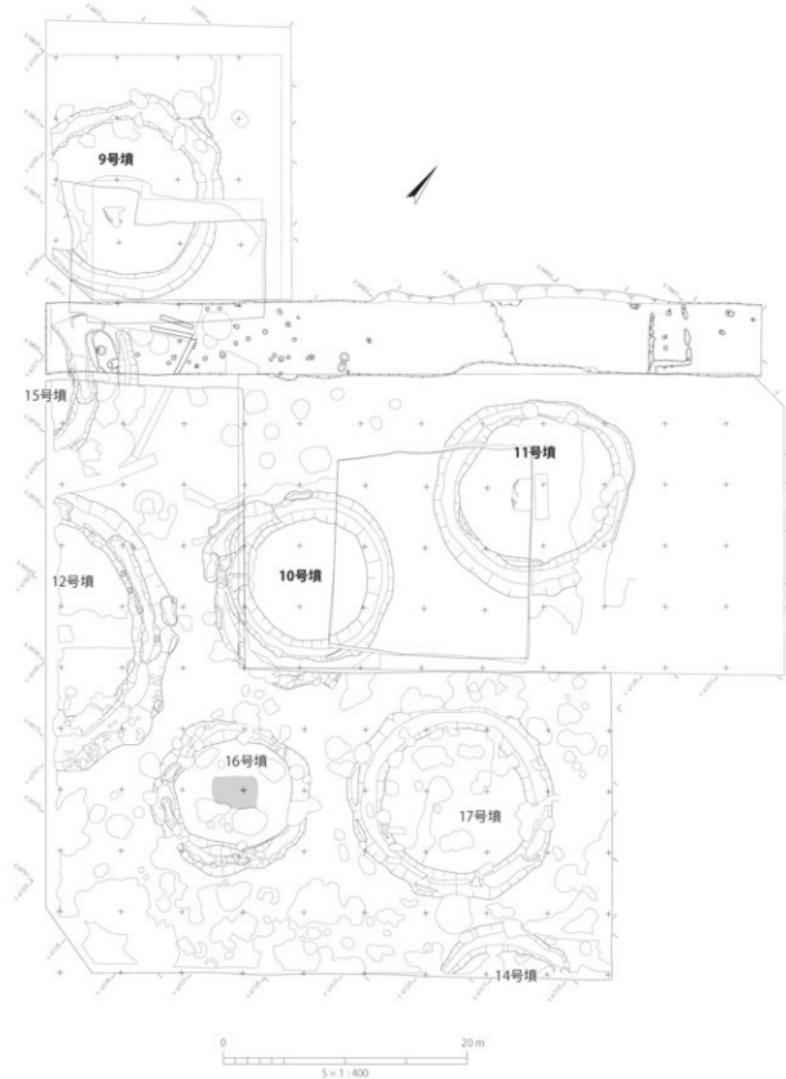


図6 矢田借屋古墳群（通算第4～7次） 平面図

(4) 調査の経過

発掘調査は4月26日より着手した。重機により切株を避けながら表土を鋤き取り、グリッドを設定。作業員を入れての本格的な作業は大型連休明けにする。

5月11日にA地区より作業開始。盛土が厚く、この掘削に10日を要した。試掘を省略したことが仇となる。

5月29日に9号墳のプランを確認し、周溝の調査を開始、遺物を検出したところでシートで養生しB地区の作業に移る。

6月5日にB地区の作業開始。10号墳は表土直下にプランが見えていた。11号墳は谷に差し掛かりやや歪なプランだが、谷底まで周溝が確認された。谷に差し掛かる周溝からは、カクランの影響で散見される以外に遺物が出土しなかった。遺物を検出して作業を中断。

7月2日、10号墳から遺物のドットマップ作成開始。実際には座標だけ野帳に記録。10日にすべての作業が終了。完掘写真撮影。

7月15日より平面図作成、7月27日に手配した空中写真撮影まで余裕があるかに思われたが、週末に豪雨に見舞われ、翌週20日から排水と復旧作業を余儀なくされた。しかし大事に至らず、空中写真も予定通り撮影され、その日のうちに撤収作業も完了した。

埋め戻しは8月2日より開始、並行して地元の生産組合の整地作業が行われ、4日に埋め戻しが完了し、現場を引き渡した。

第2節 遺構と遺物

1 借屋9号墳の調査(図8～14)

(1) 形態・規模

形態は円墳であり、墳丘は削平されており、高さは不明。主体部は粘土室(市教委2000)、規模は、周溝下端で測ると、直径13.2～13.5mである。

(2) 周溝(図8～10)

幅は底面で0.5～1.0m、上面で1.4～2.5mを測る。深さは、上端から底面の深さは0.4～0.5mで、標高差では南側は北側より0.2m低い。数字では掘方が一定に思われるが、見かけ上は周溝の北側は幅広で浅く、南側が幅狭で深く見える。覆土は、下層に地山ブロックを斑状に含み、この上位の黒褐色壙土～墳壙土に遺物を包含する。

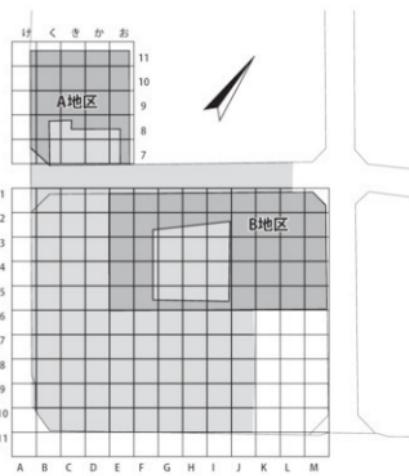


図7 矢田借屋古墳群 グリッド配点図

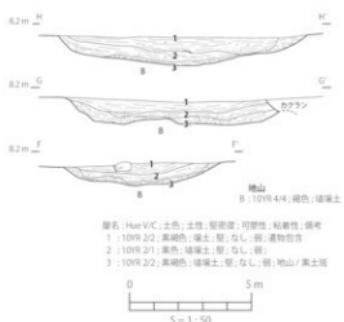


図8 借屋9号墳 周溝断面図

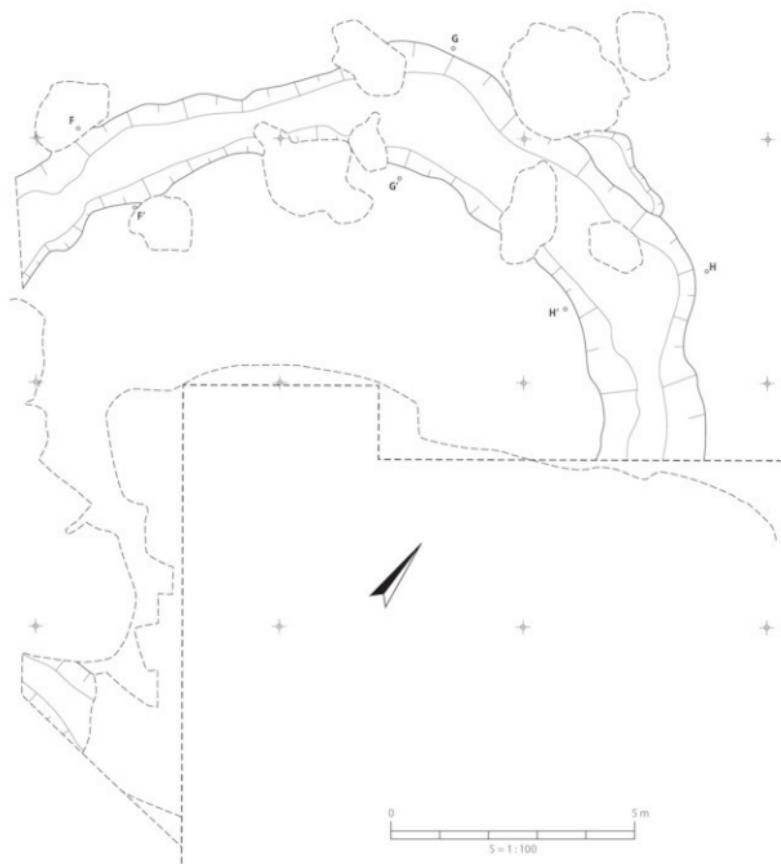


図9 借屋9号墳 平面図



図10 借屋9号墳 周溝コンター

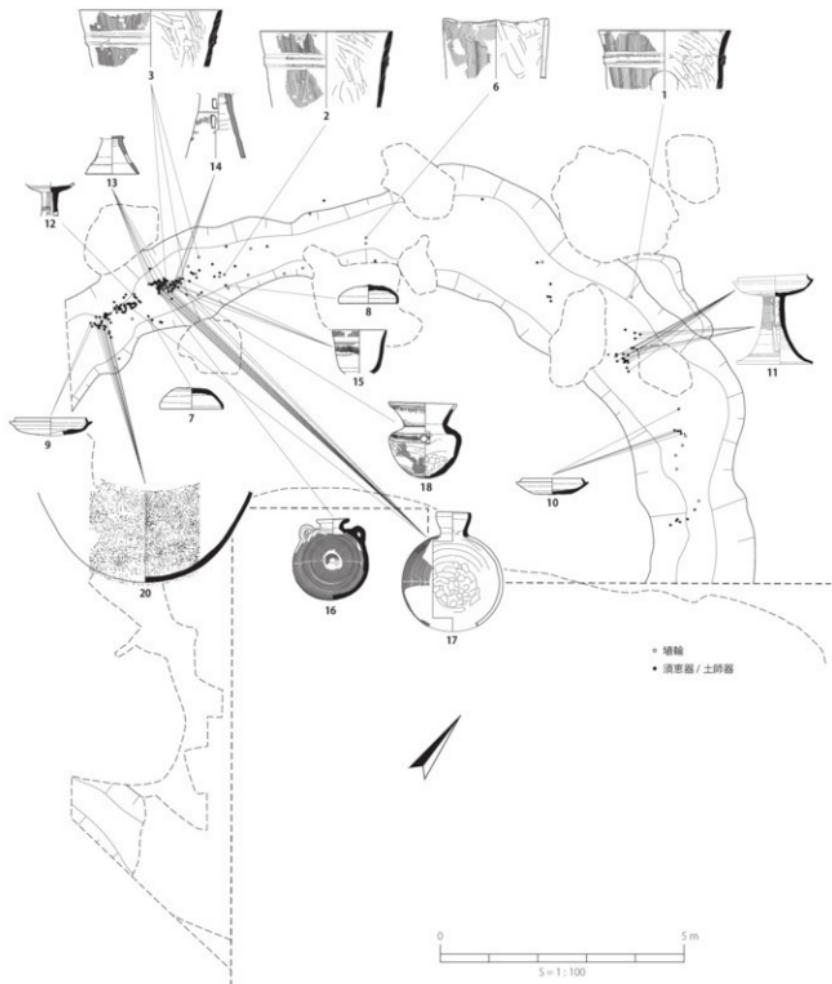


图 11 借屋 9 号填 周溝遺物分布

(3) 遺物分布状況(図11)

遺物は概ね周溝の西と北の2カ所で集中する傾向が見える。既報告分では3カ所に遺物の集中が確認されており、都合5カ所となる。実測図化したものはすべて須恵器であり、西側の集中箇所は、壺・高杯・提瓶・甌・甕が見いだされ、7・8・16・18はほぼ完形での出土である。北側の集中箇所では壺と高杯が見いだされ、どちらも破片の状態で出土した。埴輪は須恵質と土師質の両者が認められ、出土位置がプロットできなかった破片も多いが、相対的に万遍なく分布している。

(4) 周溝出土遺物(図12~14)

埴輪(1~6)

1~5は須恵質の普通円筒埴輪である。1を除いて、須恵質の埴輪は還元焰焼成が不良であり、胎土は橙・褐色系の酸化色を呈する。口縁端部は丁寧に調整されているが、全体の調整は、内面のナデ痕・指圧痕・接合痕が明瞭に認められるなど粗雑な印象である。なお、透かし窓は復元を考慮したものではなく、直径も正円であることを前提とした復元であり、実測図の取り扱いについて注意されたい。

6は土師質の普通円筒埴輪である。口縁部を含む接合部は土師質では本例が唯一であり、須恵質の資料と同様に調整は粗雑で、当該資料の場合は口縁端部の調整も粗雑である。

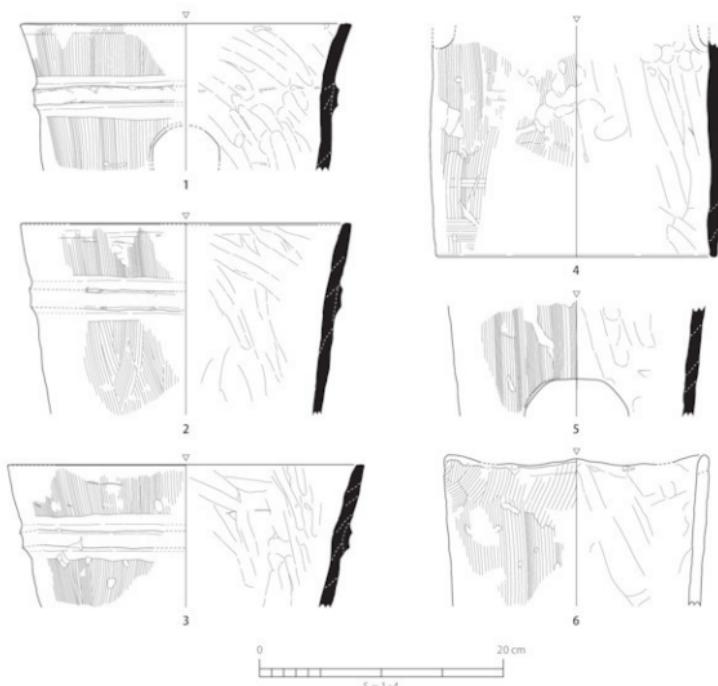


図12 借屋9号墳 出土遺物実測図1

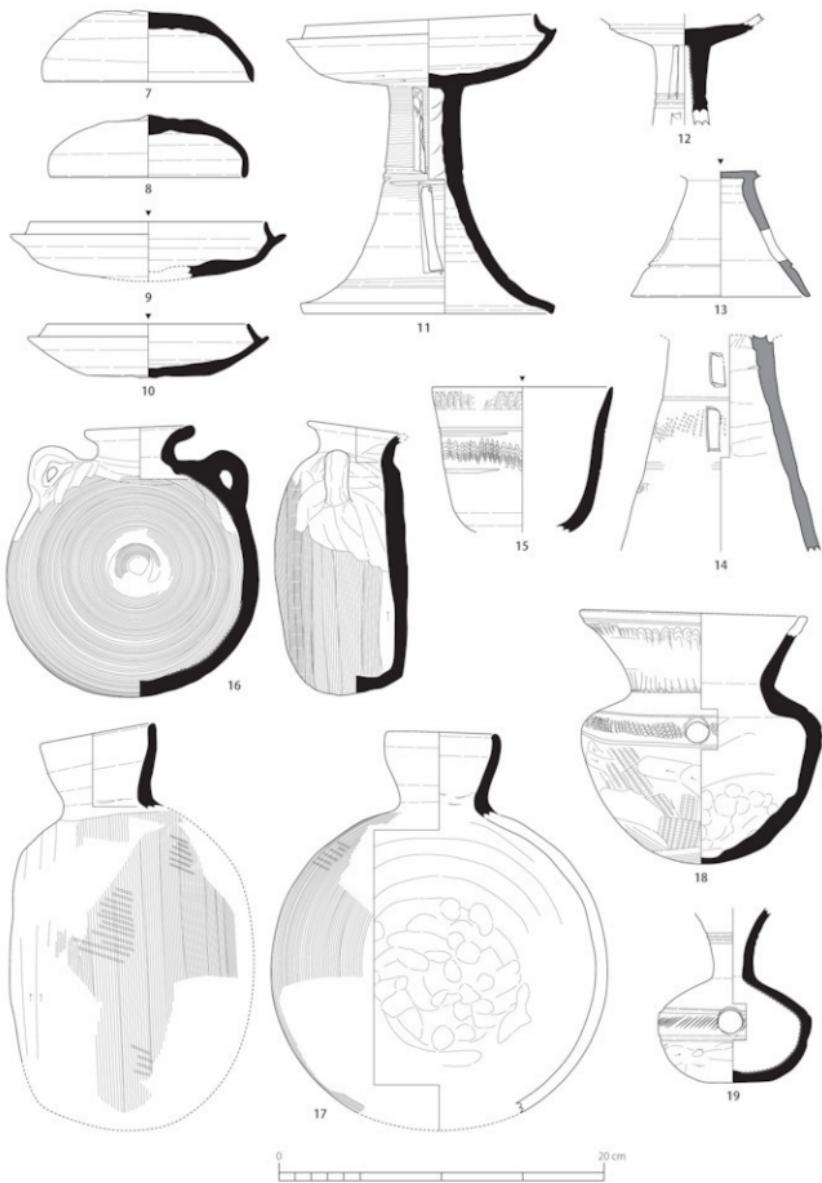


図 13 借屋 9 号墳 出土遺物実測図 2

須恵器（7～20）

7・8は壺H蓋、9・10は壺H身である。

11は有蓋高壺である。壺部は実測の時点では壺H身としていたが、出土位置を確認したところ隣接する脚部と同一個体と考えられ、実際接合することを確認した。

12は無蓋高壺と考えられる。

13・14は高壺脚部である。壺部の形態は不明である。焼成が不完全であり、実測図の断面はグレーで表示した。ただ、14については小型の器台のような器形となる可能性がある。

15は鉢の一種と思われる。ただし、類例は管見に入らない。

16は提瓶である。17は耳の部分の破片が確認できず実測図にも示していないが、器形の特徴から同様に提瓶と考えられる。

18・19は盤である。

20は大甕の底部である。

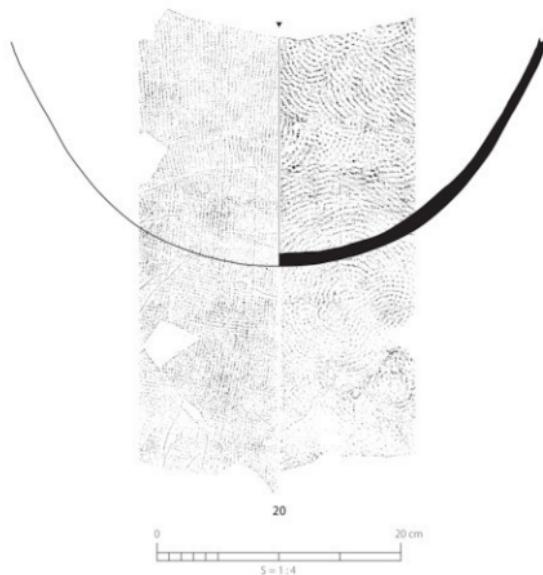


図14 借屋9号墳 出土遺物実測図3

(5) 烹造年代

既報告（市教委 2000）で 9 号墳は、周溝出土の環 H 身の型式を手掛かりに陶邑 TK10 型式期に比定された。これを在地の南加賀古窯跡群の編年に照らすと、調査報告済みの資料に限れば二ツ梨東山 4 号窯の資料が最も類似するといえることになるが、今調査の出土資料についてはむしろ 1 号窯や 5 号窯の資料に類似していると思われ、周溝出土資料は TK43 型式期も範疇に入る。

築造年代という意味では、須恵器の編年観によってはなむち決定されるものでは必ずしもなく、本墳のような粘土室主体部の須恵器にも時期差のある資料が共存するという指摘も複数ある（北野 1983 など）。埴輪を伴う古墳として、あるいは粘土室を主体部に採用する古墳として、これらの属性も総合的に勘案すれば、従来の所見を逸脱するものとはならない。

2 借屋 10 号墳の調査（図 15～20）

(1) 形態・規模

形態は円墳であり、墳丘は削平されており、高さ及び主体部は不明。規模は、周溝下端で測ると、直径 11.4～11.8m である。

(2) 周溝（図 15～17）

掘方は明瞭ではなく、既往調査分の平面図を合成した図 6 を参照すると、周溝の南半は幅狭で深い掘方の溝の外側に、幅広で浅い掘方の溝を見いだすことができる。図 15 の G-G' 断面図を参照すると、内側の深い溝は 8・9 の覆土であり地山ブロックが頗る富むのが特徴的である。外側の浅い溝は 6・7 の覆土であり、黒褐色埴輪質土である。周溝出土遺物は後者がほとんどである。

(3) 遺物分布状況（図 18）

遺物は調査時より大甕の胴部片が特に目立っていた。35 と 36 は既報告（市教委 2000 第 19 図 27）の資料と同一個体と思われ、当該資料片は周溝北側に広く分散しており、37 も同一個体となる可能性がある。また周溝南側は、既報告（市教委 2006）によって遺物の分布が僅かなことが指摘されている。

(4) 周溝出土遺物（図 19・20）

須恵器（21～37）

21～23 は環 H 身である。

24 は甕である。

25 は高环脚部であり、环脚部は既報告分を含めても不明である。

26 は既報告資料（市教委 2006 第 6 図 1）と同型であり、装飾須恵器の装飾部である。器台に載せる器種が該当するのだろうが、直接的に特定できる所見は得られなかった。

27～29 は甕である。

30 は長颈瓶である。

31・32 は横瓶である。

33・34 は器台である。

35～37 は大甕である。

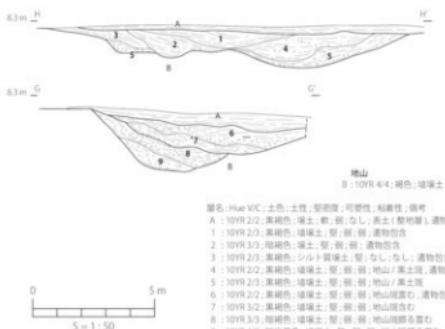


図 15 借屋 10 号墳 周溝断面図

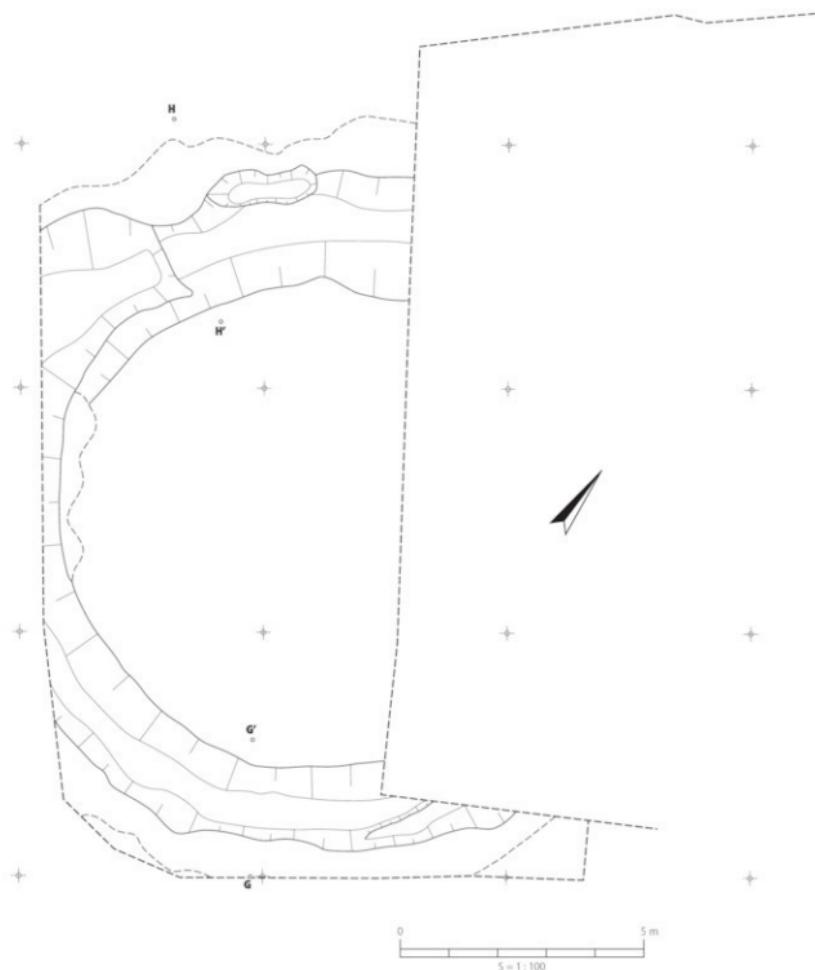


図 16 借屋 10 号墳 平面図

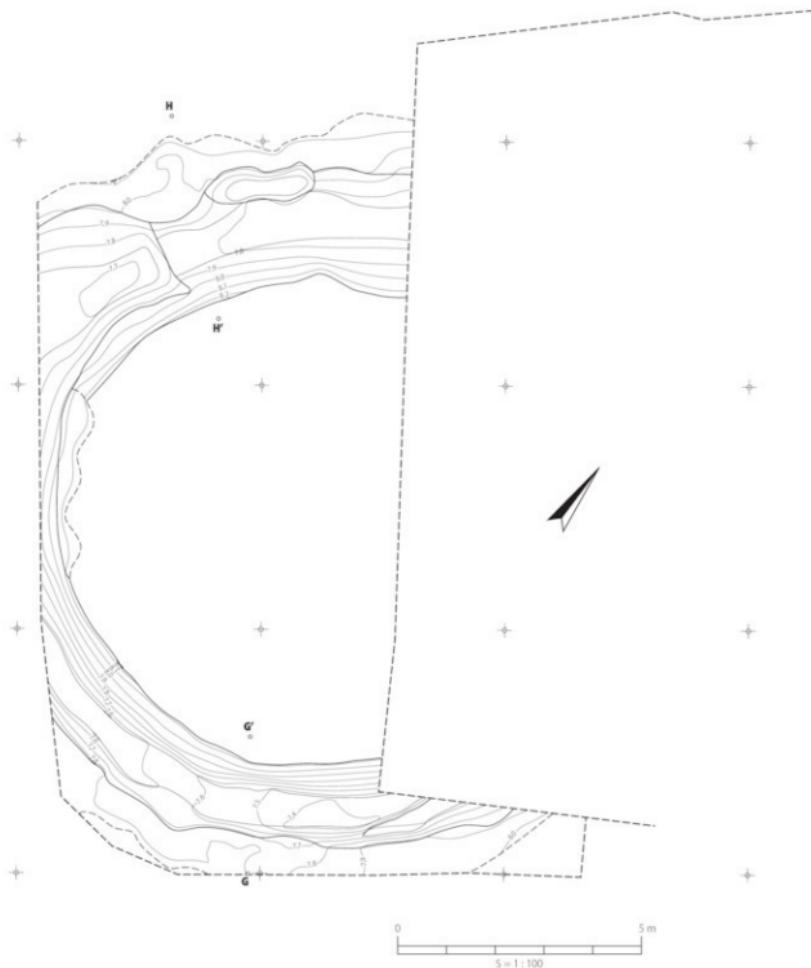


図17 借屋10号墳 周溝コンター

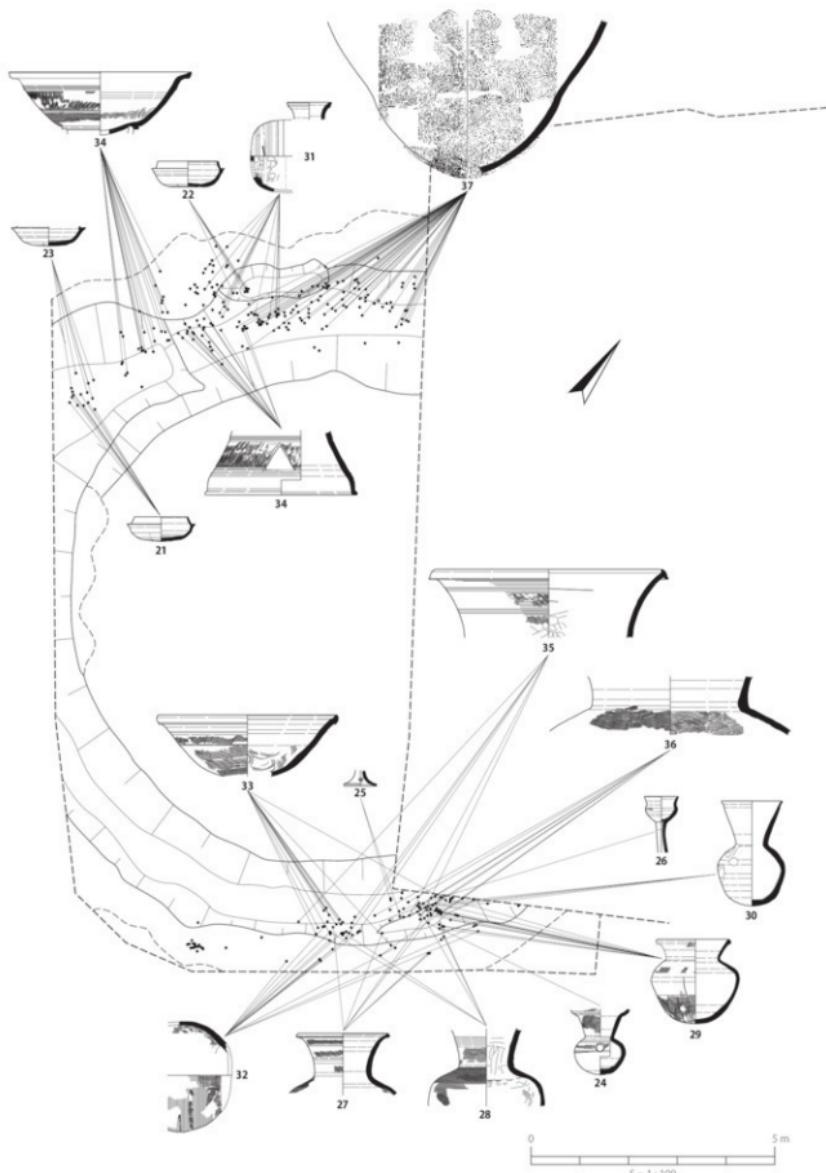


図 18 借屋 10 号墳 周溝遺物分布

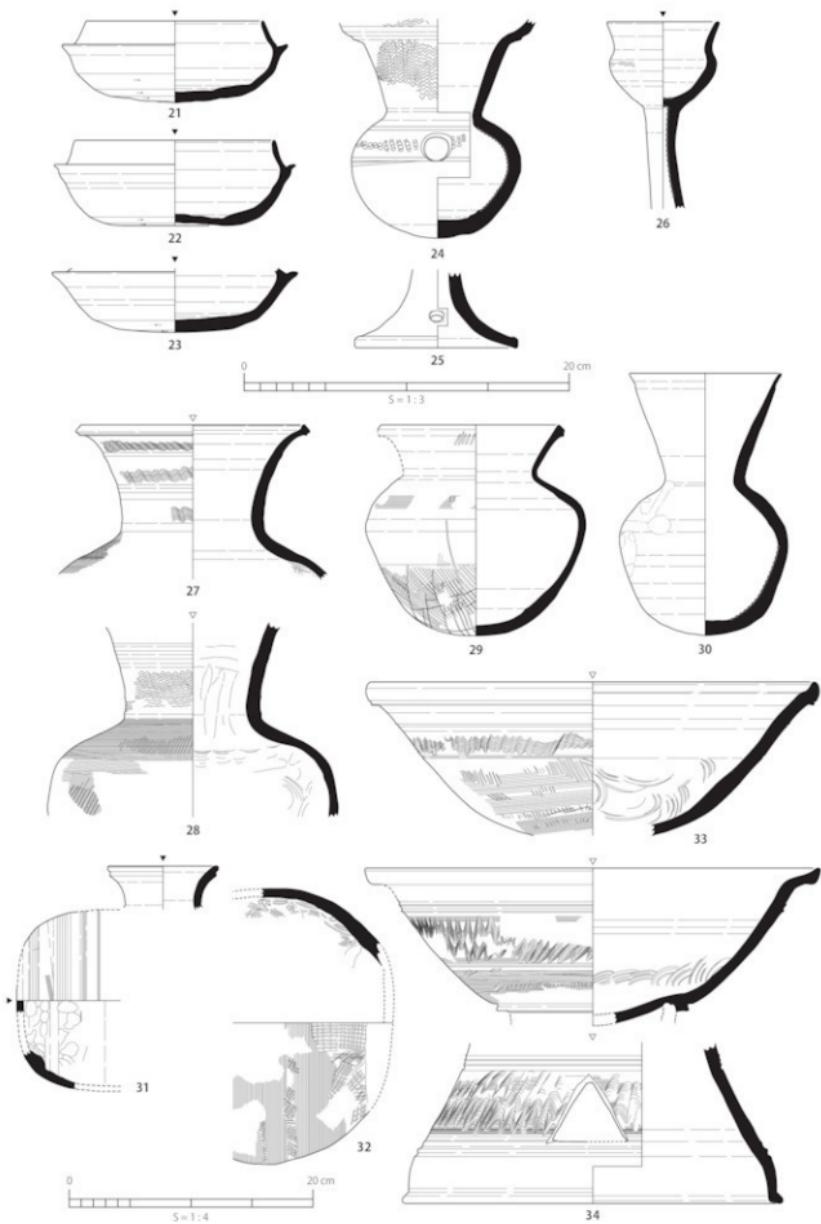


図 19 借屋 10 号墳 出土遺物実測図 1

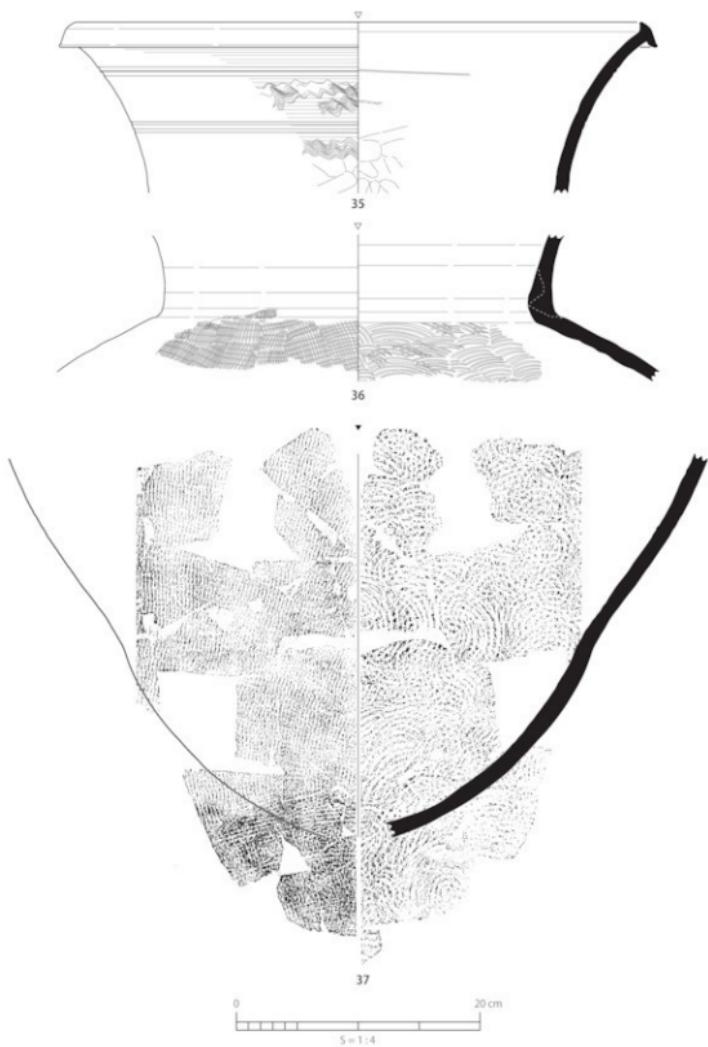


図 20 借屋 10 号墳 出土遺物実測図 2

(5) 架造年代

既報告（市教委 2000）で 10 号墳は、周溝出土の環 H 身の型式を手掛かりに陶邑 MT15～TK10 型式期に比定された。これ在地の南加賀古窯跡群の編年に照らすと、調査報告済みの資料に限れば二ツ梨東山 4 号窯の資料が最も類似するといえる。

周溝の南半部が二重になることについては、内側の溝が当初の周溝で、埴丘の改築に伴って埋め立てられたと考えられる。外側の溝については、既報告（市教委 2006）で遺物はわずかと報告されており、今調査の結果も踏まえれば、周溝出土遺物は埴丘の北半分に分布することが分かる。周溝のプランと遺物の分布状況に何らかの因果関係を認めるかは今後の検討課題としたい。

3 借屋 11 号墳の調査（図 21～25）

(1) 形態・規模

形態は円墳であり、埴丘は削平されており、高さは不明。主体部は粘土室（市教委 2000）、規模は、周溝下端で測ると、直径 13.0～14.2m とやや楕円形を呈する。

(2) 周溝 (図 21 ~ 23)

埴丘は谷に差し掛かる地点に位置し、周溝は斜面上に掘削され、谷側は周溝というよりは切岸状を呈する掘方である。谷底は地山の埴壌土層の下位の砂層が露出しており、周溝の覆土も砂質である。

(3) 遺物分布状況(図24)

今調査では周溝出土遺物は、西側にわずかに出土したのみで、北の谷側に遺物は皆無に等しい状況（土器細片が数点出土）である。

既報告（市教委 2000）では主体部が調査区外に延びる可能性が指摘されていたため、確認のために該当箇所にトレンチを入れてみたが、主体部の存在をうかがわせる礫も粘土も皆無だった。したがって、主体部の範囲は既報告の長さ約 2.7m、幅 1.6m を超えないと考えられる。

(4) 周満出土遺物(図25)

須惠器 (38 ~ 41)

38は坏H身である。

39は無蓋高杯である。

40は長頸瓶である。

41は大甕である。既報告資料（市教委2000第24図12～14）と同一個体と思われる。図化していないが胸部破片もある。

(5) 築造年代

出土遺物は概ね既報告と同一個体または同型の資料をわずかに追加したのみであり、既報告のとおり、7世紀初頭の古代I期（飛鳥I期併行）としてよいだろう。

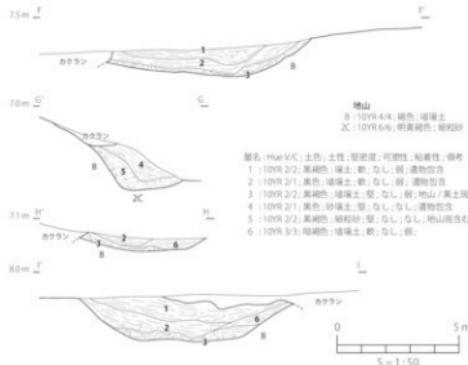


図21 借屋11号墳 周溝断面図

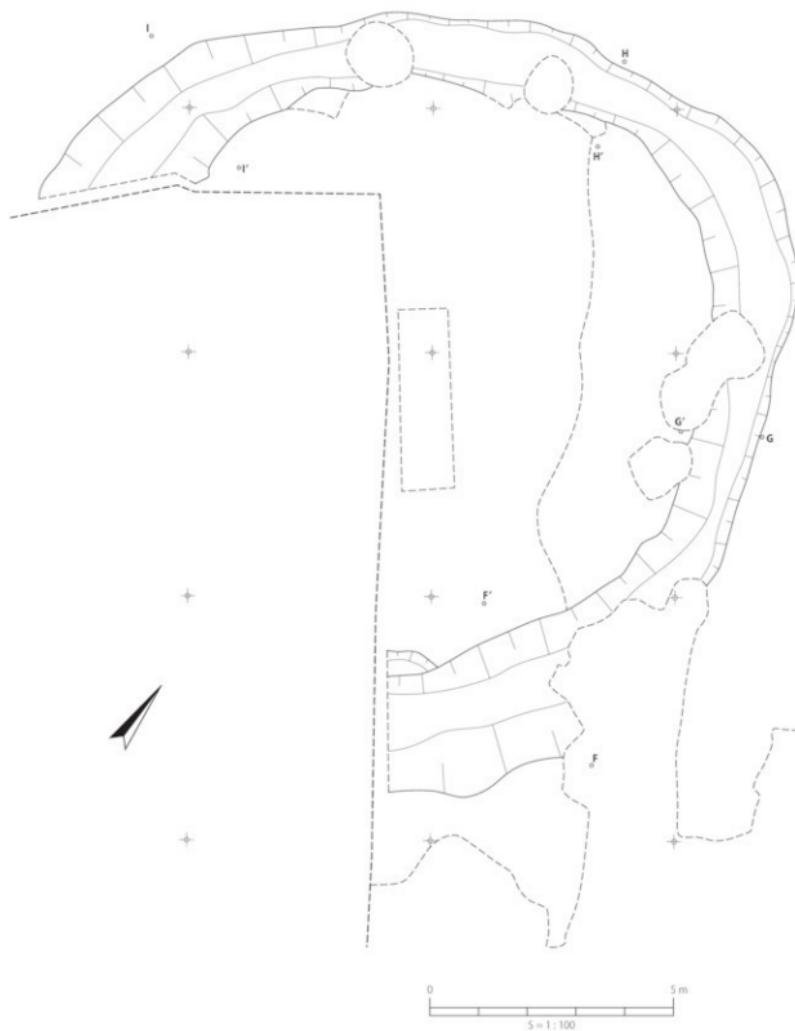


図22 借屋11号墳 平面図

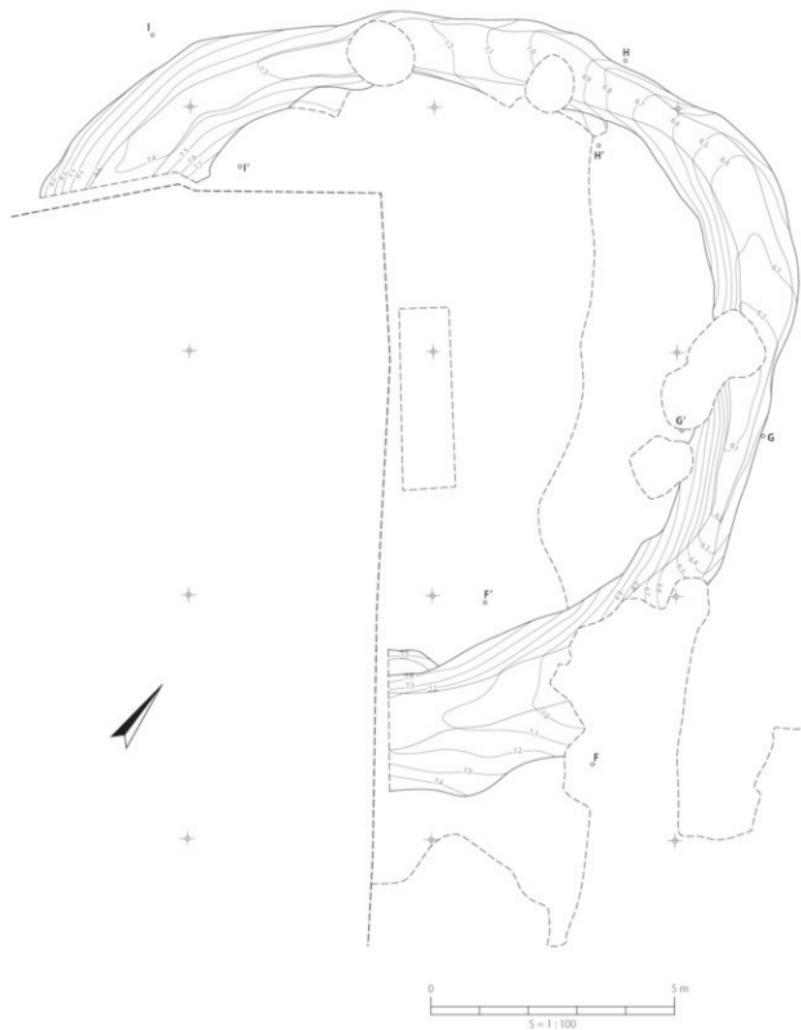


図23 借屋11号墳 周溝コンター

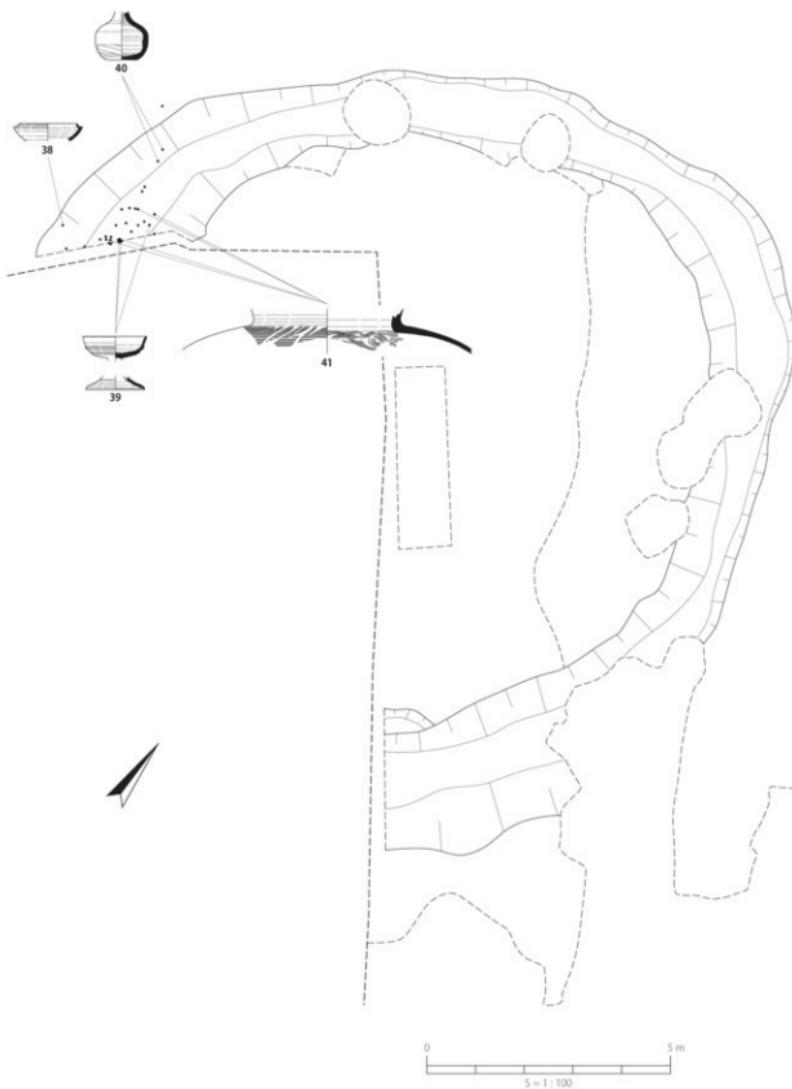


図 24 借屋 11 号墳 周溝遺物分布

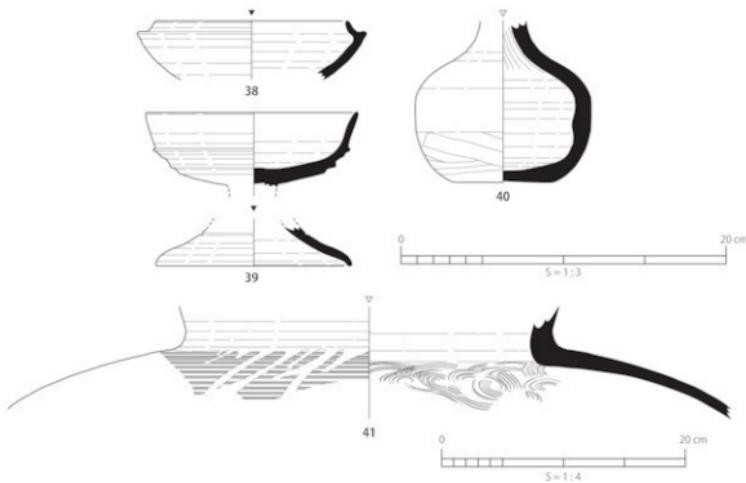


図25 借屋11号墳 出土遺物実測図

第3節 小結

今調査は、借屋9～11号墳の未調査部分の発掘調査となる。既報告（市教委2000）では推定の域を出なかった墳丘の規模が確定し、9号墳は直径約13.5mの円墳、10号墳は直径約12mの円墳、11号墳は直径約13m～14mのやや楕円を呈する円墳とする。また、未確認だった10号墳の主体部は削平の影響で残存していないことも確認した。

今調査で新たな所見が加えられることはなかったが、既往の資料を補足するものとして活用に寄与できれば幸いである。

表2 矢田借屋古墳群 出土遺物属性表

回	番号	実測	出土位置	分類	器形	寸法/残率	表面色調	胎土色調	備考
12	1	9号埴周溝	埴輪（須弥貢）普通門面	E1: 27cm/0.222		2.5Y 6/1	2.5Y 6/2		
	2	9号埴周溝	埴輪（須弥貢）普通門面	E1: 27cm/0.111		10YR 4/1 - 10YR 4/2	5YR 6/4		
	3	9号埴周溝	埴輪（須弥貢）普通門面	E1: 29cm/0.139		7.5YR 4/2 - 5YR 5/3	5YR 6/4		
	4	A地区(9号埴)	埴輪（須弥貢）普通門面	E1: 22cm/0.222		7.5YR 4/2 - 7.5YR 5/2	7.5YR 5/4		
	5	A地区(9号埴)	埴輪（須弥貢）普通門面	E1: 22cm/0.222		7.5YR 4/2	7.5YR 5/4 - 5YR 6/4		
	6	9号埴周溝	埴輪（須弥貢）普通門面	E1: 22cm/0.278		7.5YR 7/6 - 5YR 6/6	7.5YR 7/6		
13	7	9号埴周溝	埴輪器	环瓶	E1: 13cm/1.000, 高: 4.3cm	2.5Y 5/1 - 10YR 6/1	2.5Y 4/1		
	8	15号埴周溝	埴輪器	环瓶	E1: 12cm/0.639, 高: 4.9cm	2.5Y 6/1	2.5Y 7/1		
	9	16号埴周溝	埴輪器	环身	E1: 15cm/0.889, 受: 17cm/0.500	10YR 5/2 - 10YR 6/1	10YR 6/1		
	10	17号埴周溝	埴輪器	环身	E1: 12.5cm/0.208, 受: 15cm/0.389, 高: 3.2cm	2.5Y 6/1 - 7.5Y 6/1	10YR 7/1		
	11	9号埴周溝	埴輪器	高环(环部)	E1: 14cm/0.778, 受: 16.5cm/0.861, 高: 4.2cm	10YR 4/1 - 10YR 6/1	7.5YR 5/4		
	12	9号埴周溝	埴輪器	高环(脚部)	E1: 15cm/0.667, 脚: 4.5cm/1.000, 高: 13.9cm	10YR 6/1 - 10YR 6/3	10YR 6/1 - 10YR 6/3		
14	13	9号埴周溝	埴輪器	高环(脚部)	E1: 11cm/0.194, 脚: 4cm/1.000	2.5Y 8/2	2.5Y 8/1		
	14	9号埴周溝	埴輪器	高环(脚部)	E1: 6.5cm/0.528	2.5Y 7/2 - 10YR 7/2	2.5Y 7/2		
	15	44号埴周溝	埴輪器	脚	E1: 11cm/0.361	2.5Y 7/1 - 5Y 7/1	5Y 7/1		
	16	7号埴周溝	埴輪器	提瓶	E1: 6.5cm/0.500, 提: 4.5cm/1.000, 脚厚: 1.5cm, 脚高: 14.3cm, 全高: 16.8cm	2.5Y 6/2 - 2.5Y 4/1	2.5Y 6/2		
	17	8号埴周溝	埴輪器	提瓶	E1: 7cm/0.100, 提: 5.5cm/0.500	N 3/0 - N 4/0	10YR 4/1		
	18	9号埴周溝	埴輪器	瓶	E1: 14cm/0.472, 頭: 8.5cm/1.000, 脚: 14.5cm/1.000, 全高: 16.4cm	10YR 5/3 - 10YR 5/1	10YR 5/2 - 10YR 5/3		
15	19	10号(カクラン)	埴輪器	瓶	E1: 2.5cm/1.000, 頭: 9cm/1.000	10YR 6/1 - 10YR 6/4	10YR 7/2		
	20	25号埴周溝	埴輪器	大甕		10YR 7/1 - 10YR 6/4	10YR 7/3		
	21	32号埴周溝	埴輪器	环身	E1: 11cm/0.069, 受: 14cm/0.139, 高: 5.0cm	2.5Y 5/2 - 2.5Y 6/1	2.5Y 6/1		
	22	33号埴周溝	埴輪器	环身	E1: 12cm/0.389, 受: 14.5cm/0.528, 高: 5.2cm	2.5Y 6/1 - 2.5Y 5/1	2.5Y 6/1		
	23	34号埴周溝	埴輪器	环身	受: 15cm/0.083	2.5GY 5/1 - 2.5GY 7/1	2.5GY 6/1		
	24	30号埴周溝	埴輪器	瓶	頭: 6cm/1.000, 脚: 10.5cm/1.000	10R 4/2	10R 5/4		
16	25	35号埴周溝	埴輪器	高环(脚部)	E1: 6.5cm/1.000	2.5Y 5/1 - N 4/0	2.5Y 6/1		
	26	38号埴周溝	埴輪器	特殊		N 3/0 - N 4/0	N 4/0		
	27	36号埴周溝	埴輪器	瓶	E1: 18cm/0.184, 頭: 12cm/0.667	2.5Y 5/2 - 10YR 6/1	10YR 5/1		
	28	20号埴周溝	埴輪器	瓶	E1: 11cm/0.972, 頭: 24cm/0.056	10YR 4/1 - 7.5YR 4/1	2.5Y 5/6		
	29	28号埴周溝	埴輪器	瓶	E1: 15cm/0.694, 頭: 11cm/0.778, 脚: 18cm/0.833, 全高: 17.2cm	N 4/0 - 5Y 5/1	N 6/0		
	30	29号埴周溝	埴輪器	長颈瓶	E1: 12.5cm/0.278, 頭: 7cm/1.000, 脚: 14cm/1.000, 全高: 21.5cm	10YR 7/1	10YR 8/4		
17	31	31号埴周溝	埴輪器	横瓶	E1: 9cm/0.278, 頭: 6cm/0.278, 脚: 14.5cm/0.167	N 4/0 - 5YR 5/1	5YR 6/4		
	32	26号埴周溝	埴輪器	横瓶	E1: 22cm/0.083	N 3/0 - 7.5YR 6/1	7.5YR 4/1		
	33	21号埴周溝	埴輪器	器台(受部)	E1: 37cm/0.361, 受高: 12.5cm	N 3/0 - 10YR 4/1	10YR 5/1		
	34	22号埴周溝	埴輪器	器台(受部)	E1: 37cm/0.278, 受高: 11.0cm	N 4/0 - 10YR 5/1	10YR 5/1		
	35	27号埴周溝	埴輪器	器台(脚部)	E1: 31cm/0.361	N 5/0	N 4/0		
	36	19号埴周溝	埴輪器	大甕	E1: 46cm/0.222	2.5Y 5/1 - 2.5Y 3/1	5YR 4/2		
20	36	37号埴周溝	埴輪器	大甕	E1: 32cm/0.222	2.5YR 4/1 - 10YR 4/1	10YR 4/1		
	37	23号埴周溝	埴輪器	大甕		2.5Y 5/1 - 2.5Y 4/1	2.5Y 4/1		
	38	24号埴周溝	埴輪器	大甕		2.5Y 5/1 - 2.5Y 7/2	2.5Y 4/1		
	39	41号埴周溝	埴輪器	环身	E1: 12cm/0.111, 受: 14cm/0.194	10YR 6/1 - 10YR 7/2	10YR 6/4		
	40	11号埴周溝	埴輪器	高环(环部)	E1: 13cm/0.583	10YR 5/1 - 10YR 6/1	10YR 7/3		
	41	39号埴周溝	埴輪器	长颈瓶	E1: 11cm/0.500	10YR 5/1 - 10YR 6/2	10YR 6/1		
25	42	41号埴周溝	埴輪器	大甕	E1: 30cm/0.250	10YR 7/1	10YR 7/2		
								7c 前半	

表3 借屋9号墳 出土遺物プロットデータ

番号	No.	地點	実測	X	Y	H	番号	No.	地點	実測	X	Y	H	番号	No.	地點	実測	X	Y	H				
9号墳	9	北側 棚場	7	388,015,564	67,584,470	8,002	9号墳	74	北側 棚場	388,815,727	67,584,708	8,008	9号墳	147	北側 棚場	388,816,001	67,584,001	7,011	9号墳	148	北側 棚場	388,816,016	67,584,023	7,007
9号墳	9	北側 棚場	7	388,015,720	67,584,162	8,006	9号墳	75	北側 棚場	388,816,778	67,584,006	7,003	9号墳	149	北側 棚場	388,816,012	67,584,021	7,000						
9号墳	3	北側 蔓	14	388,015,977	67,584,143	8,018	9号墳	76	北側 棚場	388,816,796	67,584,006	7,003	9号墳	150	北側 棚場	388,816,013	67,584,022	7,000						
9号墳	4	北側 蔓	15	388,017,436	67,582,257	8,043	9号墳	77	北側 棚場	388,816,747	67,584,070	7,005	9号墳	151	北側 棚場	388,814,023	67,584,101	7,005						
9号墳	5	北側 棚	16	388,013,153	67,585,000	8,012	9号墳	78	北側 棚場	44	388,816,780	67,584,003	7,003	9号墳	152	北側 棚場	388,816,005	67,584,111	7,003					
9号墳	6	北側 棚	16	388,013,153	67,585,000	8,012	9号墳	80	北側 棚場	8	388,816,551	67,584,075	8,019	9号墳	153	北側 棚場	388,817,223	67,583,983	7,006					
9号墳	7	北側 棚	25	388,015,187	67,584,890	7,902	9号墳	81	北側 棚場	3	388,816,804	67,583,780	8,005	9号墳	154	北側 棚	388,817,205	67,583,803	7,005					
9号墳	8	北側 棚	25	388,015,227	67,584,832	7,904	9号墳	82	北側 棚場	388,817,023	67,583,564	8,012	9号墳	155	北側 棚	388,817,220	67,583,933	7,006						
9号墳	9	北側 棚	25	388,015,230	67,584,833	7,904	9号墳	83	北側 棚場	388,816,975	67,583,562	8,003	9号墳	156	北側 棚	388,819,997	67,573,011	8,004						
9号墳	10	北側 棚	25	388,015,230	67,584,833	7,904	9号墳	84	北側 棚場	388,816,975	67,583,562	8,003	9号墳	157	北側 棚	388,819,997	67,573,011	8,004						
9号墳	11	北側 棚	25	388,015,230	67,584,833	7,904	9号墳	85	北側 棚場	388,816,975	67,583,562	8,003	9号墳	158	北側 棚	388,819,997	67,573,011	8,004						
9号墳	12	北側 棚	25	388,015,506	67,584,832	8,003	9号墳	86	北側 棚	388,817,000	67,584,003	7,903	9号墳	159	北側 棚	388,817,178	67,572,965	8,003						
9号墳	13	北側 棚	25	388,015,503	67,584,790	8,013	9号墳	87	北側 棚	388,817,206	67,583,872	7,908	9号墳	160	北側 棚	388,819,139	67,572,965	8,008						
9号墳	14	北側 棚	25	388,015,503	67,584,803	8,003	9号墳	88	北側 棚	388,817,420	67,583,181	8,039	9号墳	161	北側 棚	388,819,303	67,572,963	7,900						
9号墳	15	北側 棚	25	388,015,759	67,584,793	8,013	9号墳	89	北側 棚	388,819,347	67,583,200	7,954	9号墳	162	北側 棚	388,819,547	67,572,799	7,908						
9号墳	16	北側 棚	25	388,015,803	67,584,793	8,013	9号墳	90	北側 棚	388,819,356	67,583,202	7,954	9号墳	163	北側 棚	388,819,740	67,572,843	7,908						
9号墳	17	北側 棚	25	388,015,750	67,584,676	8,014	9号墳	91	北側 棚	388,819,356	67,583,202	8,013	9号墳	164	北側 棚	388,819,900	67,573,596	7,904						
9号墳	18	北側 棚	25	388,015,737	67,584,705	8,013	9号墳	92	北側 棚	6	388,816,945	67,584,541	8,000	9号墳	165	北側 棚	388,820,449	67,573,794	7,900					
9号墳	19	北側 棚	25	388,015,803	67,584,730	8,019	9号墳	93	北側 棚	388,816,945	67,584,478	8,004	9号墳	166	北側 棚	388,820,661	67,574,005	7,908						
9号墳	20	北側 棚	25	388,015,803	67,584,730	8,019	9号墳	94	北側 棚	388,816,945	67,584,478	8,004	9号墳	167	北側 棚	388,820,661	67,574,005	7,908						
9号墳	21	北側 棚	25	388,015,803	67,584,730	8,019	9号墳	95	北側 棚	388,816,945	67,584,478	8,004	9号墳	168	北側 棚	388,820,661	67,574,005	7,908						
9号墳	22	北側 棚	25	388,015,866	67,584,670	8,019	9号墳	96	北側 棚	388,817,437	67,581,173	8,009	9号墳	169	北側 棚	388,820,661	67,574,045	7,905						
9号墳	23	北側 棚	25	388,015,716	67,584,663	8,013	9号墳	97	北側 棚	388,818,955	67,581,081	8,100	9号墳	170	北側 棚	388,820,661	67,574,065	7,907						
9号墳	24	北側 棚	25	388,015,749	67,584,720	7,909	9号墳	98	北側 棚	388,820,011	67,581,000	7,930	9号墳	171	北側 棚	388,820,661	67,574,066	7,908						
9号墳	25	北側 棚	25	388,015,793	67,584,700	7,908	9号墳	99	北側 棚	388,821,567	67,578,463	7,958	9号墳	172	北側 棚	388,820,661	67,574,067	7,908						
9号墳	26	北側 棚	25	388,015,861	67,584,775	7,908	9号墳	100	北側 棚	388,821,723	67,578,351	8,025	9号墳	173	北側 棚	388,820,661	67,574,067	7,908						
9号墳	27	北側 棚	25	388,015,864	67,584,775	7,908	9号墳	101	北側 棚	388,821,950	67,578,349	8,014	9号墳	174	北側 棚	388,820,157	67,573,803	7,904						
9号墳	28	北側 棚	25	388,015,864	67,584,775	7,908	9号墳	102	北側 棚	388,813,412	67,584,483	7,900	9号墳	175	北側 棚	388,821,950	67,573,803	7,904						
9号墳	29	北側 棚	25	388,015,951	67,584,616	8,000	9号墳	103	北側 棚	388,813,493	67,584,567	7,900	9号墳	176	北側 棚	388,815,789	67,584,873	7,903						
9号墳	30	北側 棚	25	388,015,977	67,584,566	8,000	9号墳	104	北側 棚	388,813,474	67,584,521	8,025	9号墳	177	北側 棚	388,815,789	67,584,873	7,903						
9号墳	31	北側 棚	25	388,015,983	67,584,567	7,903	9号墳	105	北側 棚	388,813,474	67,584,521	8,025	9号墳	178	北側 棚	388,815,789	67,584,873	7,903						
9号墳	32	北側 棚	25	388,015,983	67,584,567	7,903	9号墳	106	北側 棚	388,813,474	67,584,521	8,025	9号墳	179	北側 棚	388,815,789	67,584,873	7,903						
9号墳	33	北側 棚	25	388,015,983	67,584,567	7,903	9号墳	107	北側 棚	388,813,474	67,584,521	8,025	9号墳	180	北側 棚	388,815,789	67,584,873	7,903						
9号墳	34	北側 棚	25	388,015,983	67,584,567	7,903	9号墳	108	北側 棚	388,813,474	67,584,521	8,025	9号墳	181	北側 棚	388,815,789	67,584,873	7,903						
9号墳	35	北側 高床	25	388,016,114	67,584,493	7,908	9号墳	109	北側 高床	388,813,575	67,584,720	7,908	9号墳	182	北側 高床	388,816,034	67,583,501	7,908						
9号墳	36	北側 高床	25	388,016,114	67,584,493	7,908	9号墳	110	北側 高床	388,813,575	67,584,720	7,908	9号墳	183	北側 高床	388,816,034	67,583,501	7,908						
9号墳	37	北側 高床	25	388,016,031	67,584,803	8,125	9号墳	111	北側 高床	388,813,575	67,584,667	7,908	9号墳	184	北側 高床	388,816,034	67,583,501	7,908						
9号墳	38	北側 高床	25	388,015,803	67,584,667	8,125	9号墳	112	北側 高床	388,813,575	67,584,667	7,908	9号墳	185	北側 高床	388,816,034	67,583,501	7,908						
9号墳	39	北側 高床	25	388,015,803	67,584,667	8,125	9号墳	113	北側 高床	388,813,575	67,584,667	7,908	9号墳	186	北側 高床	388,816,034	67,583,501	7,908						
9号墳	40	北側 高床	25	388,015,907	67,584,057	8,012	9号墳	114	北側 高床	388,813,575	67,584,057	7,949	9号墳	187	北側 高床	388,816,034	67,583,501	7,908						
9号墳	41	北側 高床	25	388,016,021	67,584,463	8,012	9号墳	115	北側 高床	388,813,603	67,584,463	7,904	9号墳	188	北側 高床	388,816,034	67,583,501	7,908						
9号墳	42	北側 高床	25	388,016,021	67,584,463	8,012	9号墳	116	北側 高床	388,813,603	67,584,463	7,904	9号墳	189	北側 高床	388,816,034	67,583,501	7,908						
9号墳	43	北側 高床	25	388,016,021	67,584,463	8,012	9号墳	117	北側 高床	388,813,603	67,584,463	7,904	9号墳	190	北側 高床	388,816,034	67,583,501	7,908						
9号墳	44	北側 棚	25	388,016,021	67,584,463	8,012	9号墳	118	北側 棚	388,813,603	67,584,463	7,904	9号墳	191	北側 棚	388,816,034	67,583,501	7,908						
9号墳	45	北側 棚	25	388,016,709	67,584,413	8,003	9号墳	119	北側 棚	388,813,603	67,584,057	7,905	9号墳	192	北側 棚	388,816,034	67,583,501	7,908						
9号墳	46	北側 棚	25	388,016,840	67,584,257	7,906	9号墳	120	北側 棚	388,812,227	67,584,836	7,879	9号墳	193	北側 棚	388,816,807	67,583,176	7,904						
9号墳	47	北側 棚	25	388,016,840	67,584,257	7,906	9号墳	121	北側 棚	388,812,227	67,584,836	7,879	9号墳	194	北側 棚	388,816,807	67,583,176	7,904						
9号墳	48	北側 棚	25	388,016,851	67,584,513	7,907	9号墳	122	北側 棚	388,812,227	67,584,836	7,879	9号墳	195	北側 棚	388,816,807	67,583,176	7,904						
9号墳	49	北側 棚	25	388,016,851	67,584,513	7,907	9号墳	123	北側 棚	388,812,227	67,584,836	7,879	9号墳	196	北側 棚	388,816,807	67,583,176	7,904						
9号墳	50	北側 高床	25	388,016,862	67,584,304	8,027	9号墳	124	北側 高床	388,813,277	67,584,717	7,901	9号墳	197	北側 高床	388,816,807	67,583,176	7,904						
9号墳	51	北側 高床	25	388,016,862	67,584,304	8,027	9号墳	125	北側 高床	388,813,277	67,584,717	7,901	9号墳	198	北側 高床	388,816,807	67,583,176	7,904						
9号墳	52	北側 高床	25	388,016,862	67,584,304	8,027	9号墳	126	北側 高床	388,813,277	67,584,717	7,901	9号墳	199	北側 高床	388,816,807	67,583,176	7,904						
9号墳	53	北側 高床	25	388,016,862	67,584,304	8,027	9号墳	127	北側 高床	388,813,277	67,584,717	7,901	9号墳	200	北側 高床	388,816,807	67,583,176	7,904						
9号墳	54	北側 高床	25	388,016,862	67,584,304	8,027	9号墳	128	北側 高床	388,813,277	67,584,717	7,901	9号墳	201	北側 高床	388,816,807	67,583,176	7,904						
9号墳	55	北側 高床	25	388,016,862	67,584,304	8,027	9号墳	129	北側 高床	388,813,277	67,584,717	7,901	9号墳	202	北側 高床	388,816,807	67,583,176	7,904						

表5 借屋11号墳 出土遺物プロットデータ

参考文献

- (財) 石川県埋蔵文化財センター (2001) 小松市ブッシュウヤマ古墳群

(財) 石川県埋蔵文化財センター (2006) 小松市矢田野遺跡群

ウ 上野與一 (1965) 考古篇、小松市史 4. 風土・民俗篇、小松市教育委員会、石川県

カ 川西宏幸 (1978) 円筒埴輪範論、考古学雑誌 64-2、日本考古学会

キ 北野博司 (1983) 箱形粘土櫛の再検討と横穴式木室との関連性について、北陸の考古学、石川考古学研究会々報 第 26 号、石川考古学研究会、石川県

コ 小松高校地歴クラブ (1951) 江沼郡月津村矢田佐借屋古墳調査報告、研究報告 第三輯、石川県
小松高校地歴クラブ (1956) 石川県小松市矢田町所在借屋七号古墳調査報告
小松高校地歴クラブ (1962) 借屋八号墳発掘調査、石川県高等学校文化連盟郷土部会報 2 号
小松市教育委員会 (1989) 後山無常堂古墳・後山明神 3 号墳、石川県
小松市教育委員会 (1990) ツツケ東山古窯跡・矢田野向山古窯跡、石川県
小松市教育委員会 (1992) 矢田野エジリ古墳、石川県
小松市教育委員会 (1993) 戸戸古窯跡群 III、石川県
小松市教育委員会 (1999) 林タカラヤマ窯跡、石川県
小松市教育委員会 (2000) 矢田借屋古墳群、石川県
小松市教育委員会 (2006) 小松市内遺跡発掘調査報告書 II. 矢田借屋古墳群、石川県

タ 田舎 明人 (1988) 古代編年軸の設定、シンポジウム北陸古代土器研究の現状と課題 (資料編)、北陸古代土器研究会・石川考古学研究会、石川県

田辺昭三 (1981) 瓢箪器大成、角川書店

二 西弘海 (1986) 土器様式の成立とその背景、真陽社

△ 日置謙 (1925) 石川県江沼郡誌、江沼郡役所、p679、石川県

第Ⅲ章 島遺跡発掘調査

第1節 調査の概要

(1) 既往の調査

島遺跡は、從前より台地上の畠地に須恵器・土師器の散布が知られ、土取跡の崖面に竪穴住居跡の断面が露出するなど、埋蔵文化財包蔵地であることは周知されていた。

最初の発掘調査は、昭和 58 年度に小松市建設部土木課（当時）の市道改良工事に係り小松市教育委員会（以下、市教委）が実施した（第 1 次調査）。その後、平成 5 年には木場潟汚水幹線計画によつて市道および町道に下水道が敷設されることとなり、小松市建設部下水道課（当時）と市教委の協議の結果、平成 7 年度に町道の施工範囲について発掘調査を実施した（第 2 次調査）。

これらの調査の結果、島遺跡は弥生時代～中世にわたる複合遺跡であり、遺物の出土量からは 8 世紀後半～9 世紀前半が主体であり、時期は特定できないが製陶・製鉄と関わりを持つ性格の集落遺跡と考えられることが報告されている。

(2) 調査に至る経緯

小松市島町地内に所在する当該地において試掘調査によって埋蔵文化財を確認したのは平成 17 年度に渦る。国有地売却に係り北陸財務局から依頼を受けて 11 月 22 日に実施した。この後数年は買い手がつかない状態が続き、平成 21 年 4 月には国有財産調査業務として埋設物試掘調査をしたい旨、受託業者より問い合わせがあった。これについては、埋蔵文化財の包含状況を確認するため市教委の職員立ち会いを条件に実施を了承した。

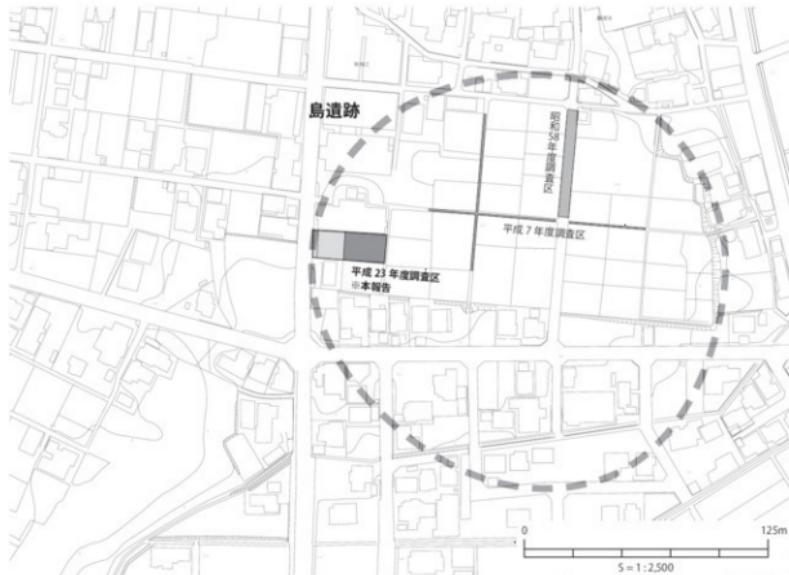


図 26 島遺跡 調査地の位置

当該地が売却されたのはこの翌年の平成 22 年であり、落札者である北喜久雄氏より住宅建築に係る埋蔵文化財の取り扱いについて相談を受けた。当該地は全面道路より 1m 以上高いことや遺物包含層が表土直下に確認されていたこともあり、次年度に予算を確保して対応するものとして北氏の同意を得ることができた。

文化財保護法および発掘調査に係る諸手続きは市教委と北氏の間で直接行い、平成 23 年 8 月 16 日付けで協定書を交換し、別件調査の傍ら発掘調査の準備に取りかかった。

(3) 調査の方法

隣地境界杭を原点 (A-1) として 5m 間隔のグリッドを設定した。

遺構の実測は、着手前に 4 級基準点を委託業務により設置し、これを与点として行った。グリッドは計算で得られた座標に基づいて図上にプロットしている。

平面図及びセクションポイントは光波測距儀で得られた座標をすべて野帳に記録し、必要に応じて図化した。原図の縮尺は、平面図は 50 分の 1、断面図は 20 分の 1 である。

(4) 調査の経過

発掘調査は 9 月 1 日より着手した。重機を手配しての作業は、表土除去のほかに車両の進入路の整地等も含まれたため、完了までに数日を要し、本格的な作業の開始は 9 月 6 日である。

作業はまず、前年の埋設物試掘調査で掘削されたトレレンジ跡を掘り返すことから始め、続いて平成 17 年度の試掘坑跡を掘り返してから、包含層の掘削に入った。包含層は東側から掘削を開始したが、開始当初こそ遺物の出土があったが、西に進むにつれて遺物の出土量は減少し、遺構らしいプランも見いだせない状況となった。もともと当該調査地は島遺跡の縁辺に位置することもあり、ある意味では周縁部の状況が非常に分かりやすい形であらわれたともいえる。

作業は順調に進んだが、10 月 3 日より急速別件調査に着手することになり、平面図作成等はこれと併行してを行い、10 月 8 日に埋め戻しまで完了した。

第2節 遺構と遺物

以下、遺構番号は既報告（市教委 1998）を踏襲した。

1 遺構（図 28・29）

(1) 11 号溝 [SD01]

12 号溝と交差して南北に延びる溝である。幅は、上端で約 1m、底面で約 50cm、下段の底面で約 30cm を測る。掘方から 2 度掘削されたと思われるが、セクションに切り合う層は確認されない。今調査で出土した遺物の主なものは、この溝に係ると考えられる。

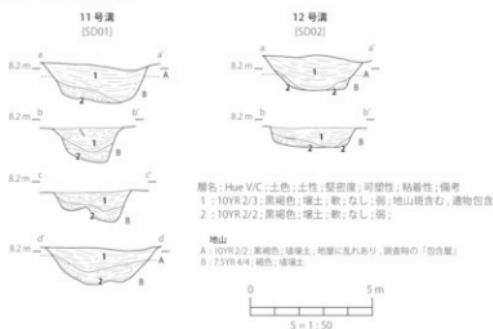


図 28 島遺跡 遺構断面図

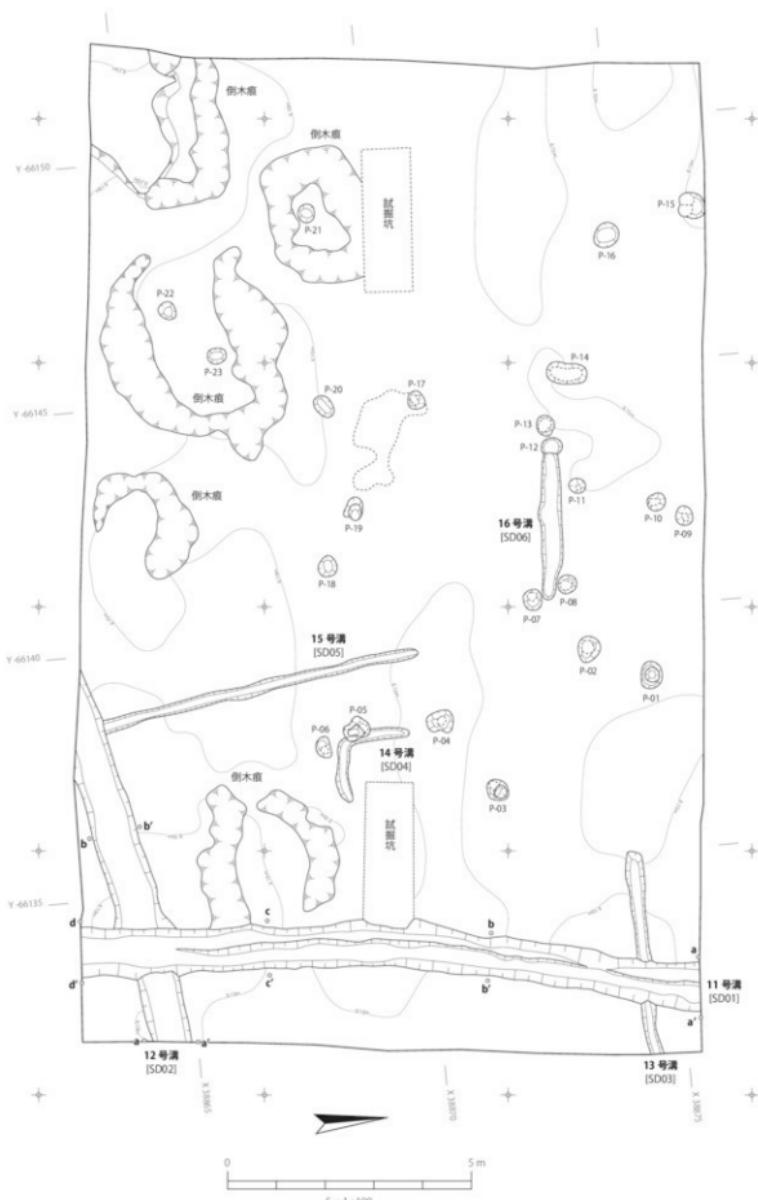


図29 島遺跡 平面図

(2) 12号溝 [SD02]

11号溝と交差して東西に延びる溝である。幅は、上端で約1m、底面で約70cmを測る。11号溝との切り合い関係が覆土でも確認でき、11号溝が掘削された時点での完全に埋まっていたか、埋め戻されたと推定される。

(3) 13号溝 [SD03]・14号溝 [SD04]・15号溝 [SD05]・16号溝 [SD06]

幅が上端で約30～40cmを測る浅い溝。直線または矩形に部分的に検出された溝で、小規模な土地を区画する溝の一部と思われる。現在の区画と一致しないことから、少なくとも近代より以前の時代の遺構の可能性がある。有意な出土遺物はない。

2 遺物（図30）

(1) 上飾器（1～4）

1・2は壺の把手である。概ね古墳時代～飛鳥時代の資料に比定される。

3・4は高環の脚部と思われる。3はハの字に開く特徴的な形態で、古墳時代前期の資料に比定される。

(2) 須恵器（5～16）

5は壺G蓋である。内面に小さな返りがつく最後の型式で、古代II₂期の資料に比定される。

6～8は壺B蓋である。口縁端部が折れる型式で、古代II₃期の資料に比定される。

9は壺A身と思われる。

10～12は壺B身である。10・11は高台が外反し、12はやや内傾気味になる。概ね古代III～IV期の資料に比定される。

13・14は壺である。短い直口縁で、肩が張りカキメで調整される。既報告資料（市教委1998第32図370）に類似しており、古代IV₁期に比定されている。

15は壺の底部か。

(3) 灰器（17）

17は大甕である。瓷器系で、口縁部を欠くために特定はできないが加賀か越前と思われる。

(4) 鋳治関連遺物（18）

18は楕円形鋳治滓である。磁着せず、メタルも含まない。

第3節 小結

今調査では、集落の周縁部に関する所見を得ることができた。すなわち11号溝と12号溝であり、集落領域を画する遺構の可能性がある。ここでは集落領域の南限を画する12号溝、西限を画する11号溝という性格付けを想定してみる。

溝の切り合い関係でいえば、12号溝が古く、これが埋没または埋め戻された後に11号溝が掘られている。両者はある程度の排水機能も意図されていたと思われる。集落の機能に関係する溝と考えよう。本報告で図30-14を古代IV₁期（8世紀後半）と位置づけたが、これは11号溝が埋没した時期の覆土（埋土？）から出土した。これがすなわち廃絶時期を表すものではないが、現段階で推定されている集落の「主要な」時期の前半に一旦途絶したか、何かしらの集落の変遷があった可能性がある。同様に12号溝はこれより以前の集落に関わる溝と考えられる。

わずかな情報ではあるが、断片的な所見しか得られていない現段階においては、集落の変遷を考察する上で貴重な情報といえるだろう。

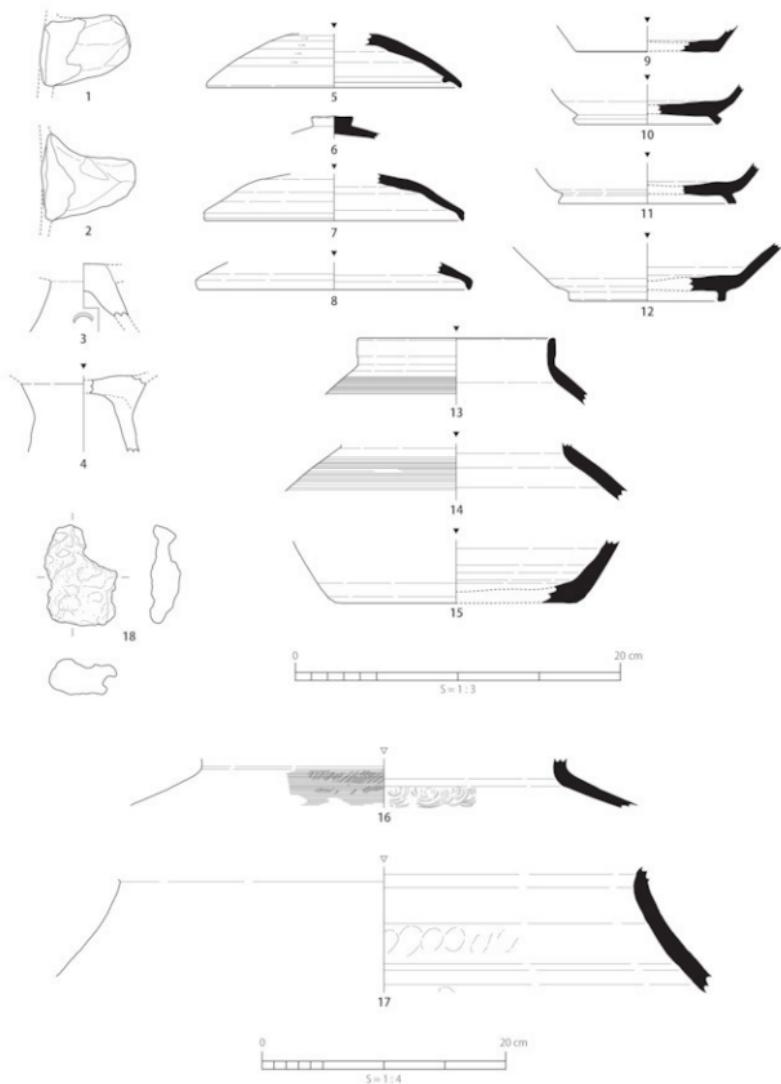


図 30 島遺跡 出土遺物実測図

表6 島遺跡 出土遺物属性表

回	番号	実測	出土位置	分類	器形	寸法 / 残率	表層色調	胎土色調	備考
	1	1	A-1 包含層	土師器	瓶(把手)		SYR 6/6	7.5YR 5/1 - 7.5YR 6/3	
	2	2	C-3 包含層	土師器	瓶(把手)		SYR 7/6 - 7.5YR 8/6	7.5YR 7/6	
	3	3	B-4 包含層	土師器	高环(脚部)	脚: 4cm / 1.000	7.5YR 6/6 - 7.5YR 8/4	5YR 5/1	古墳前期
	4	4	B-3 包含層	土師器	高环(脚部)	脚: 7cm / 0.250	7.5YR 7/6 - 2.5YR 6/6	7.5YR 6/3 - 2.5YR 7/4	
	5	6	B-3 包含層	須恵器	环盖	D: 15.5cm / 0.139	2.5Y 6/1 - 2.5Y 7/2	2.5Y 7/1	7c 後半
	6	8	A-3 包含層	須恵器	环蓋	鉢高: 0.6cm	5YR 3/3 - 5YR 4/3	10YR 6/1	8c 前半
	7	7	B-4 包含層	須恵器	环蓋	D: 16cm / 0.139	2.5Y 4/1 - 5Y 4/1	7.5YR 5/4	8c 後半
	8	5	B-3 包含層	須恵器	环蓋	D: 16.5cm / 0.111	2.5Y 5/1 - 2.5Y 6/2	2.5Y 8/3	8c 前半
	9	12	12号溝	須恵器	环身	底: 9cm / 0.250	2.5Y 7/1 - 2.5Y 8/1	2.5Y 7/1	
30	10	10	(表土除去)	須恵器	环身	底: 8.5cm / 0.250, 台高: 0.5cm	10YR 7/3 - 10YR 7/4	10YR 6/4	8c 前半
	11	11	B-3 トレンド	須恵器	环身	底: 11cm / 0.278, 台高: 0.6cm	2.5Y 5/1 - 10YR 6/1	2.5Y 7/1	8c 前半
	12	9	A-3 包含層	須恵器	环身	底: 9.5cm / 0.222, 台高: 0.6cm	2.5Y 6/1 - 10YR 7/2	2.5Y 7/1	9c 前半
	13	13	B-3 包含層	須恵器	壺	D: 12cm / 0.111, 頭: 12cm / 0.028	2.5Y 6/1 - 10YR 4/1	2.5Y 7/1	8c 後半
	14	14	11号溝	須恵器	壺	頭: 14cm / 0.083	2.5Y 7/3 - 10YR 7/2	2.5Y 7/4	8c 後半
	15	15	11号溝	須恵器	壺	底: 15cm / 0.083	10YR 5/1 - 2.5Y 7/1	10YR 6/2	
	16	20	C-2 包含層	須恵器	大甕	頭: 30cm / 0.111	2.5Y 5/1 - 10YR 6/1	10YR 7/3 - 10YR 5/1	
	17	22	A-1 包含層	炻器	大甕		2.5Y 6/1 - 10YR 4/4	2.5Y 8/2	加賀か越前
	18	23	A-2 包含層	楕形縫沿津		長: 4.1cm, 幅: 6.1cm, 厚: 2.1cm, 重: 77.6g	2.5Y 3/1		ヌタル: なし。 磁着: なし

参考文献

- 小松市教育委員会 (1991) 戸津古窯跡群 I, 石川県
 小松市教育委員会 (1993) 戸津古窯跡群 III, 石川県
 小松市教育委員会 (1993) 二ツ梨豆岡向山古窯跡, 石川県
 小松市教育委員会 (1998) 島遺跡, 石川県
 小松市教育委員会 (2000) 矢田借屋古墳群, 石川県
 小松市教育委員会 (2005) 小松市内遺跡発掘調査報告書 I, 二ツ梨豆岡向山古窯跡, 石川県
 タ 田嶋 明人 (1988) 古代編年軸の設定、シンポジウム北陸古代土器研究の現状と課題 (資料編), 北陸古代土器研究会・石川考古学研究会, 石川県

第IV章 吉竹C遺跡発掘調査

第1節 調査の概要

(1) 調査による経緯

小松市吉竹町地内に所在する株式会社岩本鉄工所は、かねてより既存の工場の隣に工場新設する計画を構想していた。今調査に係る計画より以前の平成19年にも計画があり、埋蔵文化財の取り扱いについて協議がもたれ、小松市教育委員会（以下、市教委）が試掘調査した経緯があり、この時は敷地の一部を試掘した段階で埋蔵文化財が確認されたために、敷地全体を現状のまま保存し、工場新設の計画は一旦保留された状態だった。

今回は平成23年6月22日付けで改めて協議があったものであり、市教委は前回未調査だった敷地の全域を対象に7月28日に試掘調査を実施した結果、既存工場周囲の削平された区域以外のほぼ全域で埋蔵文化財が確認された。

当該地は段丘上の傾斜地であり、造成工事で水平に整地する必要がある上に埋蔵文化財が表土直下に確認されたなど、現状保存の困難な地形的条件もあった。最終的には敷地のほぼ全域を対象に発掘調査を実施することとなり、文化財保護法および発掘調査に係る諸手続きを経て平成23年9月26日付けで協定書を交換し、別件調査の傍ら発掘調査の準備に取りかかった。

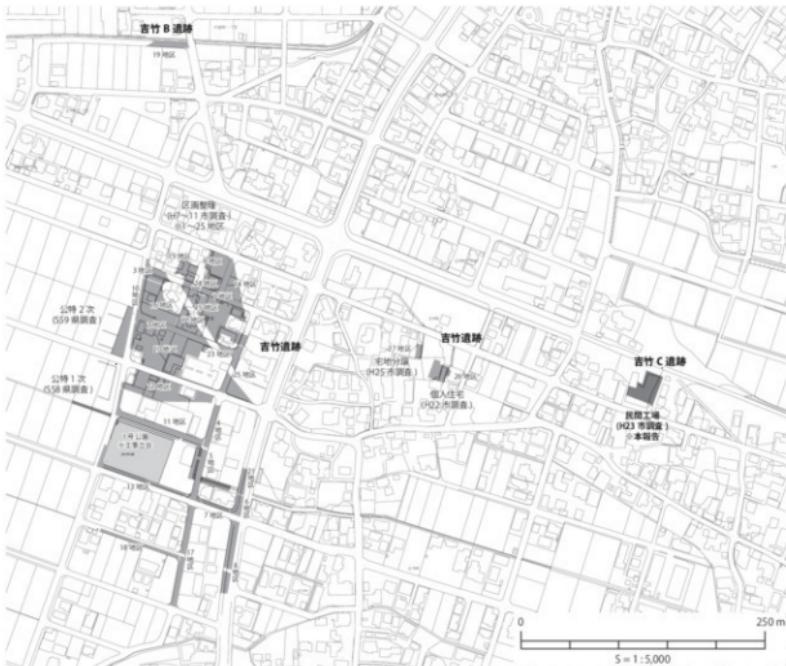


図31 吉竹C遺跡 調査地の位置

(2) 調査の方法

都市計画道路予定地の官民境界杭の一つを原点(A-5)として5m間隔のグリッドを設定した。

遺構の実測は、前年に別件調査で設置した4級基準点を利用し、これを与点として行った。グリッドは計算で得られた座標に基づいて図上にプロットしている。

平面図及びセクションポイントは光波測距儀で得られた座標をすべて野帳に記録し、必要に応じて図化した。原図の縮尺は、平面図は50分の1、断面図は20分の1である。

(3) 調査の経過

発掘調査は10月3日より着手した。この時点では別件調査の撤収と埋め戻し、平面図作成等の作業がまだ残っていたが、依頼主側の手配した重機の日程を優先して表土除去にあたった。

本格的に作業を開始したのは10月10日である。試掘調査の時点で分かっていたことではあるが、表土直下に地山が露出する状況で、包含層を掘削するというよりは、表土の鋤き残しを削るような作業であった。全体的に削平を受けており、遺構のプランは明瞭に確認できた。今調査では十分な調査期間を確保できたとはいがたい事情があったため、プランの確認は掘削作業と併行して行うこととした、虱を潰すように端から順番に掘れるところをすべて掘るような状況だった。

10月20日から翌日にかけて、井戸の調査を残して全景撮影。以降は、井戸の調査とピットの配列の検討を併行して続けた。ピットとして調査したのは394基あるが、このうち図33で着色したピットを検討の起点としたが、掘方はまちまちで、矩形に配列を見いだすこともできず、成果に結びつけることができなかった。

井戸の調査は10月24日までに完了し、一部未着手だった範囲の補足調査と平面図作成を行い、埋め戻しが不要であることを確認、11月2日に現場を引き渡した。

第2節 遺構と遺物

1 遺構(図33・34)

(1) 漏斗状の土坑

地山下層まで掘削された土坑であり、地下水が染み出し水がたまるところから、概ね井戸と考えられる。遺物は主に上層部から出土する。

SK02 直径約1.3～1.4mの略円形プランであり、上端から底面までの深さは約1.7mを測る。井戸側等の埋設は痕跡も確認されない。

SK03 一辺約1.8mの略方形のプランであり、上端から約2m掘削したが、底面に到達しなかった。掘方の上部約40～90cmまでの深さではプランが明瞭な方形を呈しており、井戸側が組まれていた可能性がある。

(2) 筒状の土坑

底面がある程度平らに均され、掘方が筒状を呈する土坑である。削平の程度にもよるが、遺物は主

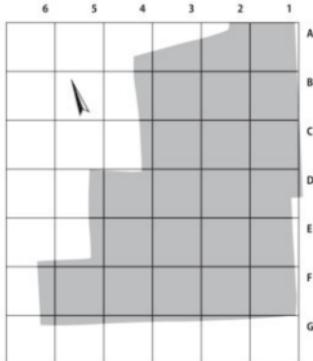


図32 吉竹C遺跡 グリッド配点図

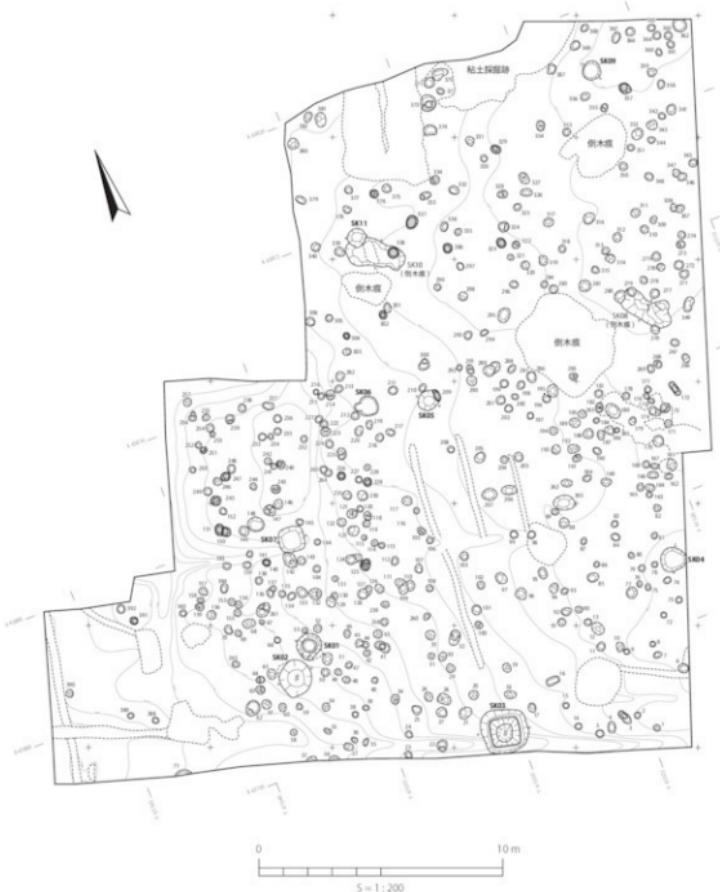


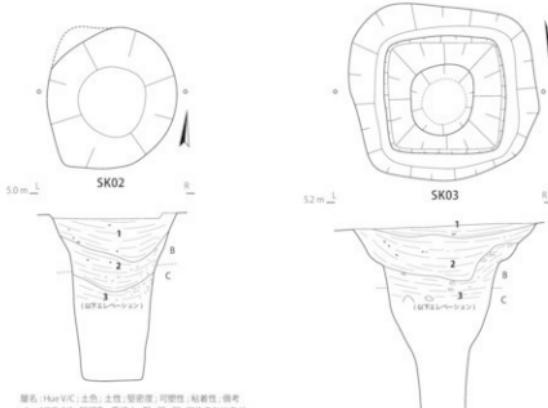
図33 吉竹C遺跡 平面図

に下層部または底面付近から出土する傾向があるようだ。

SK07 一辺約1mの略方形プランで、上端から底面までの深さは約80～90cmを測る。下層部から土師器塊の一括資料が出土した。また、北東に約5m離れたP212からも同様に土師器塊皿の一括資料が出土した。

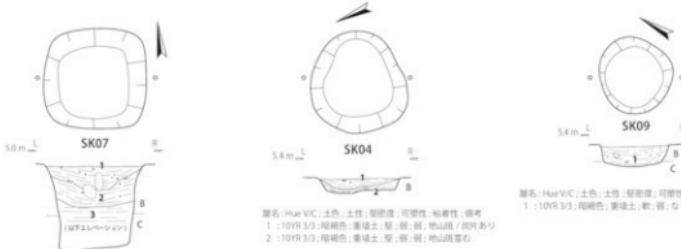
SK04 直径約1mのいびつな略円形プランであり、上端から底面までの深さは約15cmを測る。

SK09 直径約75cmの略円形プランであり、上端から底面までの深さは約20cmを測る。底面には下層地山が露出しており、調査地は整地によって傾斜が緩くなった可能性を示唆している。



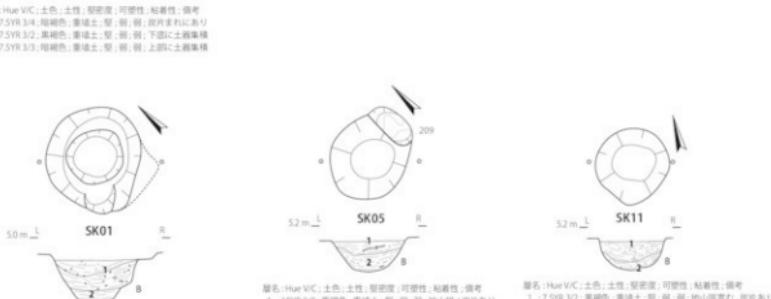
図名: Hue V/C; 土色: 土性; 塗密度: 可塑性; 黏着性: 働考
1: 10YR 3/3; 細網色; 塗埴土; 肥; 銀; 岩片あり
2: 10YR 3/2; 黑網色; 塗埴土; 肥; 銀; 地山地山面含む
3: 10YR 3/3; 細網色; 塗埴土; 肥; 銀; 石州地山面含む

図名: Hue V/C; 土色: 土性; 塗密度: 可塑性; 黏着性: 働考
1: 10YR 3/2; 黑網色; 塗埴土; 肥; 銀; 岩片あり
2: 10YR 3/3; 細網色; 塗埴土; 肥; 銀; 岩片あり
3: 10YR 4/2; 黄黃網色; 塗埴土; 肥; 銀; 地山面含む



図名: Hue V/C; 土色: 土性; 塗密度: 可塑性; 黏着性: 働考
1: 10YR 3/3; 細網色; 塗埴土; 肥; 銀; 岩; 地山面 / 岩片あり
2: 10YR 3/2; 黑網色; 塗埴土; 肥; 銀; 下部に土器集積
3: 7.5YR 3/3; 細網色; 塗埴土; 肥; 銀; 上部に土器集積

図名: Hue V/C; 土色: 土性; 塗密度: 可塑性; 黏着性: 働考
1: 10YR 3/3; 細網色; 塗埴土; 肥; 銀; 岩; 地山面含む; 岩片あり



図名: Hue V/C; 土色: 土性; 塗密度: 可塑性; 黏着性: 働考
1: 10YR 3/3; 細網色; 塗埴土; 肥; 銀; 岩片あり
2: 10YR 3/2; 黑網色; 塗埴土; 肥; 銀; 岩片あり
3: 10YR 2/2; 黑網色; 塗埴土; 肥; 銀;

図名: Hue V/C; 土色: 土性; 塗密度: 可塑性; 黏着性: 働考
1: 7.5YR 3/2; 黑網色; 塗埴土; 肥; 銀; 地山地山面石; 岩片あり
2: 7.5YR 3/3; 細網色; 塗埴土; 肥; 銀; 地山地山面石

図 34 吉竹 C 遺跡 遺構実測図

(3) 鉢状の土坑

底面はほとんど平らに均されずに凹み、掘方が鉢状を呈する土坑である。削平の程度にもよるが、遺物は主に下層部または底面付近から出土する傾向があるようだ。

SK01 直径約 1m の略円形プランであり、上端から底面までの深さは約 50cm を測る。

SK05 直径約 75cm の略円形プランであり、上端から底面までの深さは約 35cm を測る。

SK11 直径約 70cm の略円形プランであり、上端から底面までの深さは約 35cm を測る。

2 遺物（図 35～37）

(1) 古墳時代の遺物（1～10）

1～4 は土師器であり、1・2 は甕形、3 は塊形、4 はミニチュアである。概ね漆町編年 14・15 群かそれ以降に比定される。5～9 は須恵器蓋杯であり、5～7 は陶邑 TK47 型式、8・9 は MT15～TK10 型式併行に比定される。10 は勾玉である。古墳時代前期の所産か。

(2) 古代の遺物（11～18）

11 は土師器鍋と思われる。12～18 は須恵器であり、12・13 は环 A、14 は高环脚部、15 は瓶、16 は横瓶、17・18 は甕である。口縁部の特徴から概ね古代 V 期の範疇で 9 世紀前半と思われる。

(3) 平安時代後期の遺物（19～41）

19～27 は P212 出土の土師器皿及び塊である。前年調査の吉竹遺跡 26 地区出土資料（市教委 2013）が類似しており、中世 I-I（南加賀 8A）期の範疇で 11 世紀後半と考えたい。

28～40 は SK07 出土の土師器塊である。千代オオキダ遺跡 196 号土坑出土資料（市教委 2006）等に比定して古代 VII（南加賀 7）期の範疇で 10 世紀後半と考えたい。41 は、共伴した土鍤である。

(4) 中世の遺物（42～47）

すべて炻器である。42～44 は珠淵であり、42 は大甕、ほかは小甕である。45 はハケメ調整が特徴的な甕であり、初期の加賀とされる類例がある（石川県立埋文 1988）。46 は鉢であり、口縁部の形態は加賀の特徴に似るか。47 は加賀播鉢である。

以上のうち、42～44・47 は、概ね 13 世紀代の所産と思われる。

第3節 小結

本報告は主な遺物が出土した遺構の分類のみにとどまったが、いくらか示唆的な成果があった。

一つは集落遺跡の分布についてであり、近隣の吉竹遺跡と関連を持つもう一つの集落の存在が垣間見えたことである。今調査では集落遺跡の傍証を得ただけだったにせよ、わずかかもしれないが新しい所見が得られたことを重視したい。

旧来の吉竹集落は、沖積層に囲まれた低平な段丘に立地し、独立丘が南北に 2 つと東側に丘陵地から北西に舌状に伸びる台地があり、いずれも地質的には高位段丘に分類される。この 2 つの独立丘と舌状台地の先端部に、都合 3 つの集落を形成していた。吉竹 C 遺跡はこれらのうち舌状台地先端部に位置する遺跡であり、今調査区はこの先端部にあたる。

もう一つは出土遺物についてであり、吉竹遺跡との比較において、土器だけ見れば内容はよく似ている。しかしながら、今調査では鍛冶関連遺物が確認されていない。勿論、今後出土しないとも限らないが、現段階では、吉竹 C 遺跡と吉竹遺跡では集落としての性格が異なる、という可能性も考慮しておきたい。

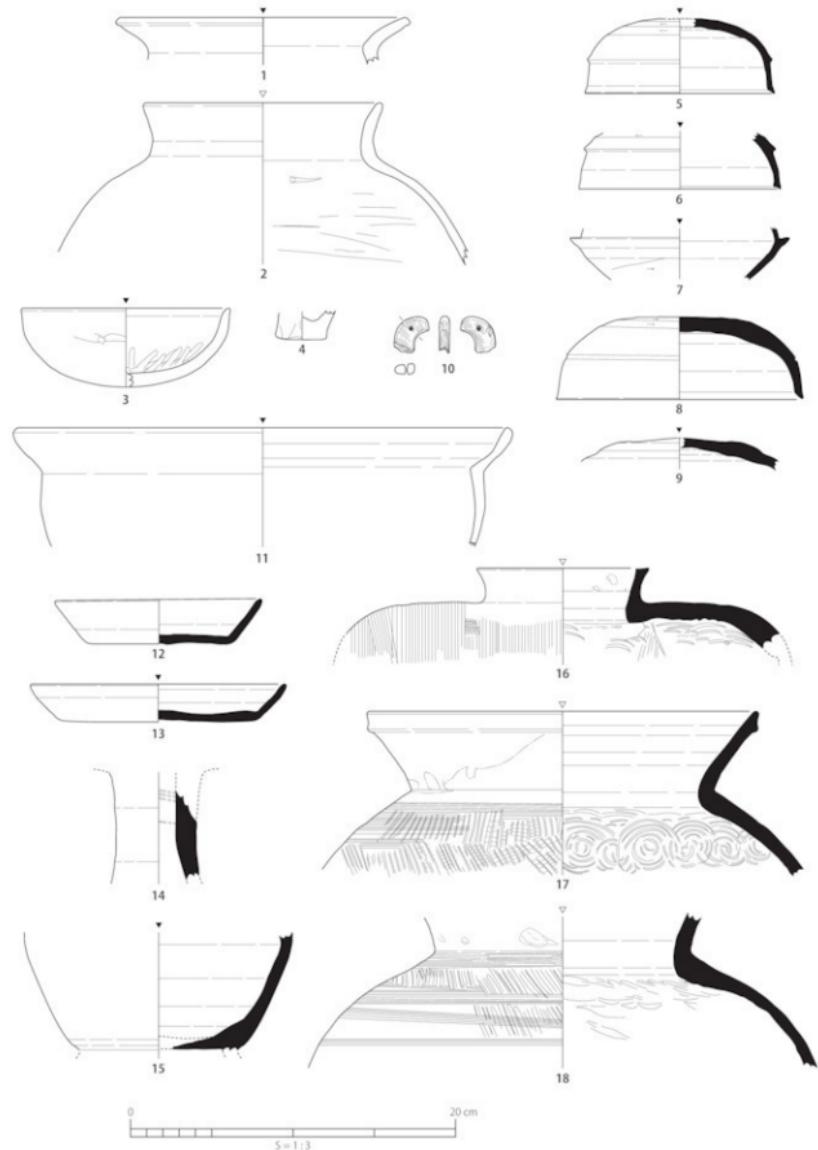


図35 吉竹C遺跡 出土遺物実測図1

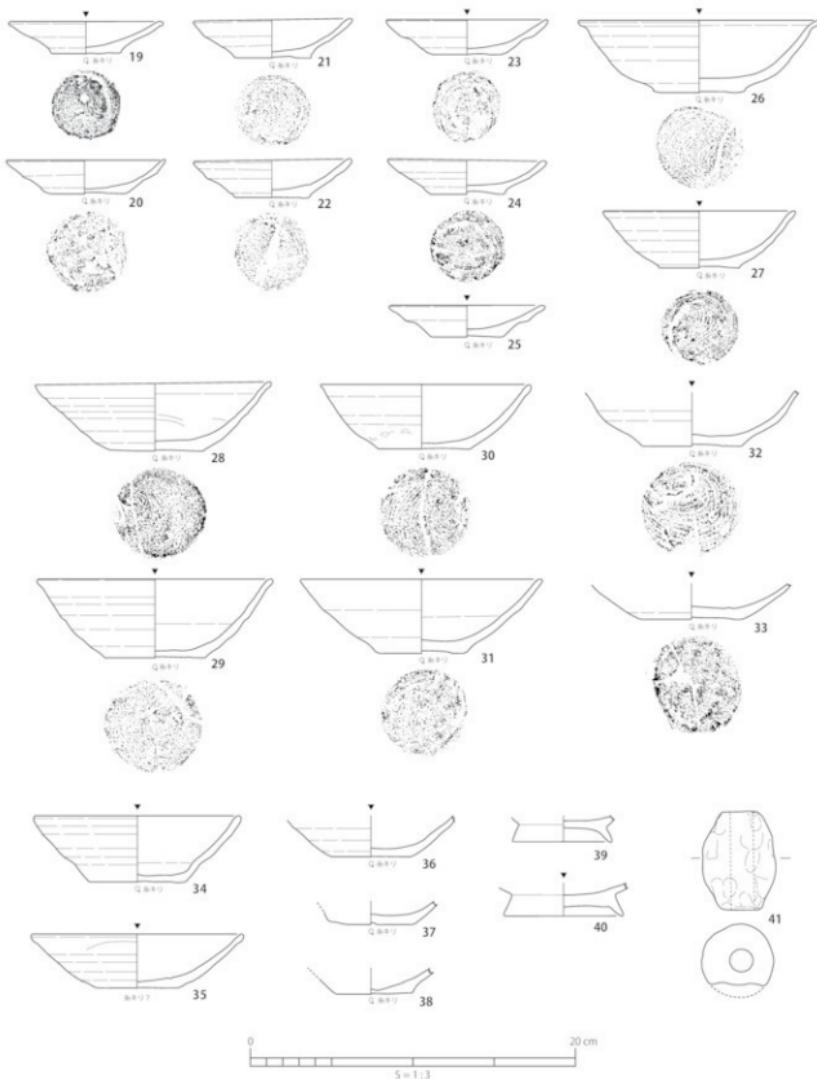


図36 吉竹C遺跡 出土遺物実測図2

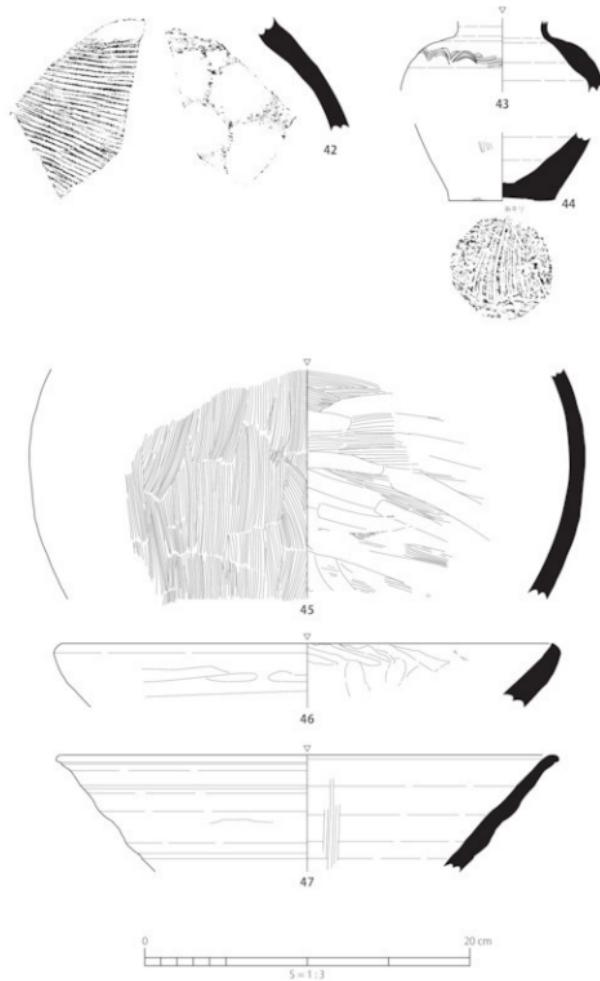


図 37 吉竹 C 遺跡 出土遺物実測図 3

表7 吉竹C遺跡 出土遺物属性表

回	番号	実測	出土位置	分類	器形	寸法/残存	表層色調	胎土色調	備考
1	27	P282	土師器	甌		L: 18cm/0.097, 頂: 14cm/0.111	7.5YR 5/2 - 10YR 7/2	7.5YR 5/1	古墳後期
2	26	SK05	土師器	甌		D: 14.5cm/0.111, 頂: 13.5cm/0.333	10YR 8/4 - 10YR 7/1	10YR 8/4 - 10YR 5/1	古墳後期
3	25	SK05	土師器	甌		D: 13cm/0.194, 高: 4.8cm	5YR 4/3 - 5YR 5/6	5YR 6/6	古墳後期
4	28	F-3 包含層	土師器	ミニチャア	底: 3cm/0.667		5YR 7/6 - 7.5YR 8/3	5YR 7/6	古墳後期
5	37	P44	須恵器	环蓋		D: 11.5cm/0.194, 高: 4.6cm	2.5Y 7/1 - 10YR 5/1	10YR 4/1	TK47
6	38	P282	須恵器	环蓋		D: 11.2cm	N 4/0 - N 3/0	10YR 4/1 - 10YR 3/2	TK47
7	41	P258	須恵器	环身		D: 13.5cm/0.194	N 5/0 - N 4/0	N 5/0	TK47
8	40	SK04	須恵器	环蓋		D: 15cm/0.528, 高: 5.0cm	2.5Y 5/1 - 2.5Y 7/2	2.5Y 7/2	MT15-TK10
9	39	P357	須恵器	环蓋			2.5Y 7/1 - 2.5Y 6/2	2.5Y 7/2	MT15-TK10
10	47	P357	勾玉			幅: 2.1cm, 厚: 0.6cm, 重: 3.55g			
11	24	SK03	土師器	甌		D: 30cm/0.139, 頂: 27cm/0.250	10YR 8/3	10YR 5/1	
12	30	SK02	須恵器	环身		D: 12.5cm/0.611, 底: 8.5cm/0.806, 高: 2.7cm	2.5Y 6/1	2.5Y 7/1	9c 前半
13	29	SK02	須恵器	盤身		D: 15.5cm/0.111, 底: 12cm/0.528, 高: 2.3cm	10YR 7/1	10YR 7/1	9c 前半
14	33	F-5 包含層	須恵器	高杯(脚部)		D: 5.5cm/1.000	10YR 7/1 - 10YR 3/1	10YR 6/1	
15	31	SK02	須恵器	瓶		D: 10cm/0.306	10YR 6/1	10YR 7/1	
16	36	SK03	須恵器	横瓶		D: 10.5cm/0.361, 頂: 9.5cm/0.555	7.5YR 6/1 - 10YR 6/2	10YR 6/1	9c 前半
17	35	SK02	須恵器	甌		D: 24cm/0.194, 頂: 18.5cm/0.306	2.5Y 7/1	2.5Y 7/2	9c 前半
18	34	F-4 包含層	須恵器	甌		D: 15.5cm/0.194	2.5Y 7/1 - 2.5Y 5/1	2.5Y 7/3	
	19	3	P212	土師器	皿	D: 9.5cm/0.389, 底: 4cm/1.000, 高: 2.0cm	7.5YR 8/4	7.5YR 8/4	11c 後半
	20	4	P212	土師器	皿	D: 10cm/0.861, 底: 5cm/1.000, 高: 2.1cm	7.5YR 8/4 - 5YR 7/6	10YR 8/4	11c 後半
	21	5	P212	土師器	皿	D: 10cm/0.639, 底: 4.5cm/1.000, 高: 2.4cm	7.5YR 8/8 - 7.5YR 8/3	7.5YR 8/8 - 7.5YR 8/3	11c 後半
	22	6	P212	土師器	皿	D: 10cm/0.750, 底: 4.5cm/1.000, 高: 2.4cm	7.5YR 8/8 - 7.5YR 8/4	7.5YR 8/4	11c 後半
	23	7	P212	土師器	皿	D: 10cm/0.167, 底: 4.5cm/1.000, 高: 2.1cm	5YR 7/6	5YR 7/6	11c 後半
	24	8	P212	土師器	皿	D: 10cm/0.611, 底: 4.5cm/1.000, 高: 2.1cm	7.5YR 8/5 - 7.5YR 8/4	7.5YR 8/2	11c 後半
	25	9	P212	土師器	皿	D: 10cm/0.361, 底: 4.5cm/1.000, 高: 2.0cm	7.5YR 8/4 - 7.5YR 8/6	7.5YR 8/4	11c 後半
	26	1	P212	土師器	壺	D: 15cm/0.194, 底: 5.5cm/1.000, 高: 4.4cm	7.5YR 8/6	10YR 8/4	11c 後半
	27	2	P212	土師器	壺	D: 12cm/0.722, 底: 5cm/1.000, 高: 3.5cm	10YR 8/3	10YR 8/2	11c 後半
36	28	10	SK07	土師器	壺	D: 14.5cm/0.361, 底: 6cm/1.000, 高: 4.2cm	7.5YR 8/6	7.5YR 8/6	10c 後半
	29	11	SK07	土師器	壺	D: 14.5cm/0.472, 底: 6cm/1.000, 高: 4.9cm	10YR 8/4 - 5YR 7/6	5YR 7/6	10c 後半
	30	13	SK07	土師器	壺	D: 13.5cm/0.306, 底: 5.5cm/1.000, 高: 3.9cm	10YR 8/3 - 5YR 7/6	10YR 8/4	10c 後半
	31	14	SK07	土師器	壺	D: 15cm/0.139, 底: 5.5cm/1.000, 高: 4.6cm	10YR 8/3 - 5YR 7/6	10YR 8/3	10c 後半
	32	21	SK07	土師器	壺	D: 6cm/1.000	7.5YR 8/6 - 7.5YR 7/6	7.5YR 8/2	10c 後半
	33	22	SK07	土師器	壺	D: 6cm/0.694	10YR 8/3 - 10YR 5/1	10YR 8/4 - 10YR 6/2	10c 後半
	34	12	SK07	土師器	壺	D: 12.5cm/0.333, 底: 6cm/0.583, 高: 5.1cm	7.5YR 8/6 - 5YR 7/6	7.5YR 8/6 - 5YR 7/6	10c 後半
	35	15	SK07	土師器	壺	D: 13cm/0.306, 底: 5cm/0.333, 高: 3.3cm	10YR 8/4 - 5YR 7/6	10YR 8/4	10c 後半
	36	16	SK07	土師器	壺	D: 5cm/1.000	7.5YR 8/6 - 5YR 7/6	7.5YR 8/6	10c 後半
	37	17	SK07	土師器	壺	D: 5cm/1.000	10YR 8/4	10YR 8/4	10c 後半
	38	18	SK07	土師器	壺	D: 5cm/1.000	10YR 8/4	10YR 8/4	10c 後半
	39	19	SK07	土師器	壺	D: 6cm/0.444, 台高: 0.9cm	5YR 7/6	5YR 7/6	10c 後半
	40	20	SK07	土師器	壺	D: 7cm/0.389, 台高: 1.3cm	7.5YR 8/6 - 7.5YR 8/3	7.5YR 8/4	10c 後半
	41	23	SK07	土師器	壺	長: 6cm, 幢: 4.5cm, 孔徑: 1.4cm	10YR 8/4		
37	42	43	SK03	炻器	大甌		N 5/0	N 6/0	珠洲, 13c
	43	45	SK03	炻器	小甌	D: 5.5cm/0.389	7.5YR 4/1 - N 3/0	N 6/0 - N 4/0	珠洲, 13c
	44	44	SK03	炻器	小甌	D: 6.5cm/1.000	N 4/0 - N 7/0	N 6/0	珠洲, 13c
	45	42	SK03	炻器	甌	D: 34cm/0.278	2.5Y 7/1 - N 4/0	N 7/0	加賀?
	46	32	F-3 包含層	炻器	甌	D: 31cm/0.111	10YR 4/1 - 2.5Y 6/1	2.5Y 7/1	加賀?
	47	46	F-5 包含層	炻器	甌	D: 30.5cm/0.042	7.5YR 4/2 - 7.5YR 4/3	7.5YR 6/1	加賀, 13c

表8 吉竹遺跡群 略年表

時 期	吉 竹 遺 跡	吉 竹 C 遺 跡	備 考
法仏期	2・7・8号堅穴建物、2・7・9・15・19・22・28号掘立柱建物、6号土坑、1・2号溝		盛期1
月影期	1・6・9号堅穴建物、8・13・18・25号掘立柱建物、17号土坑 12・(14)・23号掘立柱建物、16号土坑		
白江期	(14号掘立柱建物)、11・19号土坑	(P357)	
4世紀	4・13・15号土坑		吉竹B道路の原
5世紀	4・5号堅穴建物、1・10・11・17・20号掘立柱建物、3・5・7・8・9・10・12・14号土坑、3号溝		盛期2
6世紀	1・2号土坑 18号土坑	SK04、SK05	
7世紀	(10号堅穴建物)		
8世紀			
9世紀	(10号堅穴建物)	SK02[井戸]	
10世紀			
11世紀		SK07	
		P212	
12世紀	33号掘立柱建物		
13世紀	(30・32号掘立柱建物)		
14世紀	(30)・31号掘立柱建物、4・6号溝、21号土坑	SK03[井戸]	鎌治開闢遺物
15世紀以降			文献上に「古武村」

参考文献

- イ 石川県立埋蔵文化財センター (1986) 漆町遺跡I, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター (1987) 吉竹遺跡, 石川県小松市
- 石川県立埋蔵文化財センター (1988) 辰口西部遺跡群I, 石川県能美市
- (財) 石川県埋蔵文化財センター (1999) 辰口上巣山谷山西谷窯跡, 石川県能美市
- 小松市教育委員会 (1991) 戸津古窯跡群I, 石川県
- 小松市教育委員会 (2001) 吉竹遺跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (2004) 八里向山遺跡群, 石川県
- 小松市教育委員会 (2006) 千代オオキダ遺跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (2013) 小松市内遺跡発掘調査報告書 IX. 吉竹遺跡, 石川県
- 小松市教育委員会 (2013) 吉竹遺跡 II, 石川県
- ス 球洲市立珠洲城資料館 (1989) 球洲の名陶, 石川県
- タ 田嶋 明人 (1988) 古代編年軸の設定, シンポジウム北陸古代土器研究の現状と課題 (資料編), 北陸古代土器研究会・石川考古学研究会, 石川県
- 辰口町教育委員会 (2005) 和氣後山谷窯跡群, 石川県能美市
- 田辺 昭三 (1981) 須恵器大成, 角川書店
- テ 出越 茂和 (1997) 北陸古代後半における椀皿食器 (後), 北陸古代土器研究 第7号, 北陸古代土器研究会 编
- ミ 宮下 幸夫 (1997) 在地窯「加賀窯」, 中・近世の北陸, 北陸中世土器研究会 编, 桂書房
- モ 望月 精司 (2008) 南加賀地域の平安後期土器群に関する編年的考察, 須見町遺跡 III, 小松市教育委員会, 石川県



借屋 9 号墳 作業状況



借屋 9 号墳 遺物出土状況



借屋 9 号墳 完掘状況



借屋 9 号墳 完掘状況



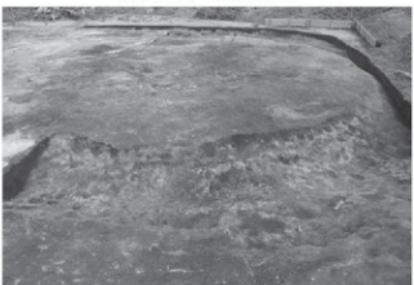
借屋 10 号墳 作業状況



借屋 10 号墳 遺物出土状況



借屋 10 号墳 完掘状況



借屋 10 号墳 完掘状況



借屋 11号墳 作業状況



借屋 11号墳 完掘状況



借屋 11号墳 完掘状況



借屋 9号墳 垂直写真



借屋 10号墳 垂直写真



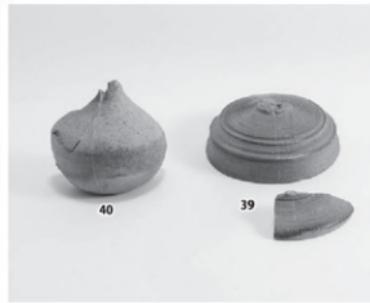
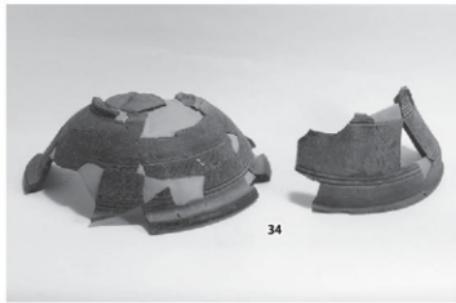
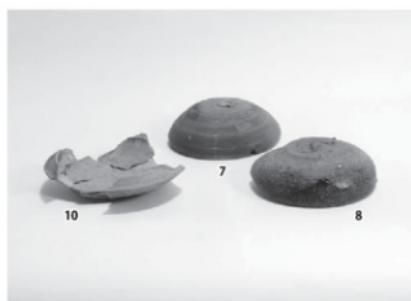
借屋 11号墳 垂直写真



矢田借屋古墳群 調査区全景



矢田借屋古墳群 調査区全景





作業状況



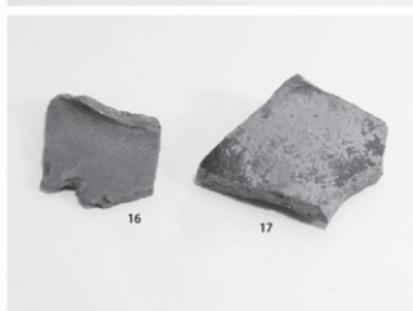
作業状況



12号溝



11号溝





作業状況



完掘状況



SK02 セクション



SK02



SK03 セクション



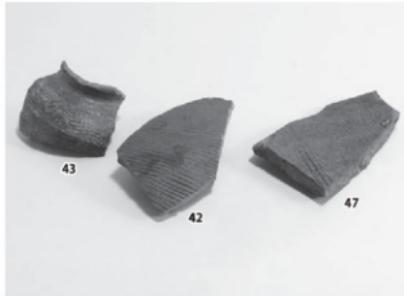
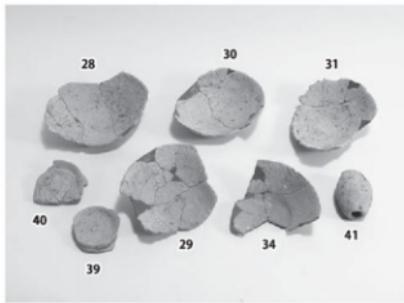
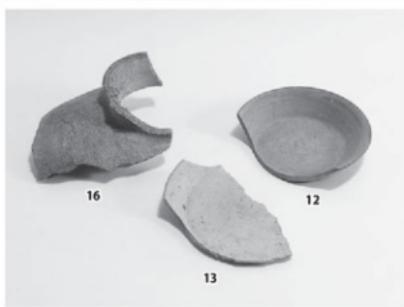
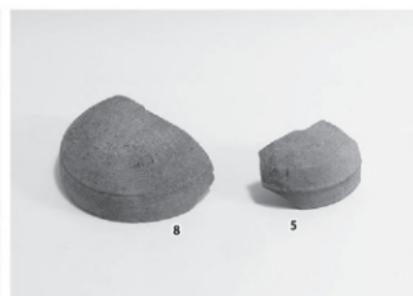
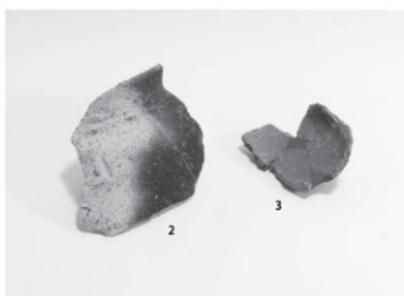
SK03



SK07 遺物出土状況



SK07 セクション



報告書抄録

ふりがな	こまつしないいせきはくつちょうさほうこくしょ 10
書名	小松市内遺跡発掘調査報告書 X
副書名	矢田借屋古墳群・島遺跡・吉竹 C 遺跡
卷次	
編・著者名	宮田 明
編集機関	石川県小松市教育委員会
所在地	〒 923-8650 石川県小松市小馬出町 91 番地 TEL (0761) 22-4111㈹
発行年月日	西暦 2014 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'\"/>	東経 °'\"/>	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
矢田借屋 古墳群	石川県小松市 月津町	17203	03103	36° 20' 51"	136° 24' 51"	2010. 4. 26 ~ 2010. 8. 4	1,140	個人農地造成
島	石川県小松市 島町	17203	03118	36° 20' 53"	136° 25' 47"	2011. 9. 1 ~ 2011.10. 8	310	個人住宅建設
吉竹 C	石川県小松市 吉竹町	17203		36° 23' 34"	136° 28' 51"	2011.10. 3 ~ 2011.11. 2	617	工場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
矢田借屋 古墳群	古 墳	古 墳	円墳3	埴輪、須恵器、土師器	

要約	借屋 9 ~ 11 号墳の未調査部分の調査。未確認だった 10 号墳の主体部は削平によって消滅していたことが確認された。
----	--

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
島	集 落	古 墳 古 代	溝 2	須恵器、土師器	

要約	調査された溝は、集落領域を画する溝と思われる。
----	-------------------------

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉竹 C	集 落	古 墳 古 代 中 世	土坑 7、戸戸 2	須恵器、土師器、中世陶器（加賀、珠洲）	

要約	近隣の吉竹遺跡と関連を持つもう一つの集落遺跡と考えられる。
----	-------------------------------

小松市内遺跡発掘調査報告書 X

矢田僧房古墳群・島遺跡・吉竹 C 遺跡

平成 26 年 3 月 31 日 発行

編集・発行 石川県小松市教育委員会
石川県小松市小馬出町 91 TEL (0761) 22-4111

印 刷 株式会社ゲンダ美術印刷
石川県小松市丸の内町 2-32 TEL (0761) 22-7031
